

2. 非婚・晩婚の母子保健学的研究 (第3報)

母子保健研究部	宮原 忍・千賀 悠子
	斎藤 幸子
児童家庭福祉研究部	高橋 重宏・須永 進
昭和大学医学部公衆衛生学教室	星山 佳治

要約

最近の非婚・晩婚傾向とそれが将来の子産み・子育てにいかに関与するかを知るために、若い世代の結婚観と将来の親としてのイメージを調査した。今回は男子学生534名と女子学生195名である。前回の調査とあわせ、男女1275名の回答を分析した。

「一生結婚するつもりはない」とするものは、男子2.7%、女子0.8%にとどまったが、男女とも理想を犠牲にして意志に沿わない結婚をするつもりはなく、これが結果として晩婚傾向に結びつく可能性があると考えられた。

男子の、自分が「将来なるであろう父親像」は、＜やさしく世話をする養育的父親像＞であり、「志向する父親像」は＜明るくやさしく、リーダーシップのある父親像＞、「社会が期待する父親像」は、＜やさしさのあるやや保守的な父親像＞である。

親イメージと結婚観の関係を見たが、結婚に関して積極的な思いを持っていない人達の父親あるいは母親イメージは、それぞれの親性の特徴を示す要素が低い傾向が見られた。

キー・ワード：婚姻、低出生率、母性性、子育て

An MCH Study on Negative Attitude toward Nuptiality

Shinobu MIYAHARA, Yuko CHIGA, Sachiko SAITO,
Shigehiro TAKAHASHI, Susumu SUNAGA,
Yoshiharu HOSHIYAMA

Summary: The young women's view of marriage and the images of future selves as parents were surveyed in order to investigate the effect of the recent tendency toward the late marriage on future childbearing and childrearing.

Although the eagerness of the young people toward marriage was not decreased, they did not want to marry at the sacrifice of their ideals. This attitude might be a factor for the late marriage.

The "future image of selves as fathers" of the young men was "kindly caring fathers", and the "image of fathers as objects" was "cheerful fathers with leadership", and the "socially expected image of fathers" was "kind, slightly conservative fathers."

The people who were less positive about marriage had the parent image with rather poor parent image.

[Key Words]: marriage, low birthrate, parenthood, childbearing.

I はじめに

第二次大戦後、わが国の出生率は急激な低下を示し、多産・多死から、少産・少死へと短期間に人口転換を達成したが、その後もこの傾向は持続し、労働力や高齢者の扶養などに不安を感じさせるまでになった。その背景には、最近の晩婚傾向があり、さらに非婚傾向も取り沙汰されるに至っている。

われわれは第1報において¹⁾、わが国の非婚・晩婚傾向に関する最近の諸調査を展望し、その結果、晩婚傾向が出生率低下の主要な要素となっていること、晩婚傾向と配偶者選択の関係、家族像の変貌、ジェンダー・ロールの変化とそれにともなう女性のライフ・コースのシフトなどが浮き彫りにされた。

また、第2報においては²⁾、若い女性の結婚観と将来の母親としての自己像を調査した。現代女性の結婚志向は決して低下していないが、理想を犠牲にして意志に沿わない結婚をするつもりはなく、これが、結果として晩婚傾向に結びつく可能性があると考えられた。父親像・母親像についての調査では、因子分析でいくつかの因子が明らかになったが、両者重なり合うところが大きいことが浮き彫りにされた。

今回は、同様の調査を男子学生に行い、現在の父親像を探るとともに、女性との比較を行った。

II 研究方法

前回の調査項目を男性用に修正し、以下のような調査内容となった。すなわち、〈対象の育成歴〉〈結婚観〉〈人生の生き方のタイプ〉〈出生率低下、非婚・晩婚傾向に関する意見〉〈母親・父親イメージ〉である。このうち〈人生の生き方のタイプ〉の設問では、「結婚相手への希望」と「もし自分が違う性に生まれたとしたら」を追加した。調査票作成に当たって、厚生省人口問題研究所「第10回出生動向基本調査」³⁾を参考にした。

調査場所は、山形県1、宮城県1、東京都3、神奈川県2、愛知県1の計8カ所の大学であった。

アンケート配布数は986で、729の回答を得、回収率は73.9%であった。うち男子学生は534名、女子学生は195名、学生の専攻は医学、福祉、教育、心理、体育であった。このうち既婚者と30歳以上の者を除き、未婚、30歳未満の有効回答男子527、女子194計721を集計対象とした。

今回の分析は、上記の有効回答721と昨年度の女子学生554を併せて、1275（男子527名、女子748名）を集計した。

【対象の概要】

対象の属性について、表1-1に、年齢、きょうだい数、現在同居している人、育った家庭の家族形態、過去と現在の母の就業の有無、両親が結婚したときの年齢を、表1-2に中学校から現在まで男女共学であったか別学であったかを男女別に示した。

年齢で20歳未満が男性に比べ、女性が多くなっているのは、前年度の対象に短期大学の女子学生が含まれているためである。

両親の晩婚傾向の有無を知るため、結婚した時の年齢をたずねた結果、父については「34歳以下」、母については「29歳以下」で結婚したものが、全体の95%程度を占め、現在の基準での晩婚は少ない。父の平均年齢は50歳、母の平均年齢は48歳である。

母の就業は、一人で暮らせる程度以上の収入のある仕事について〈記憶では子どもの頃、母はどのような仕事をしていたか〉、〈現在、母はどのような仕事についているか〉を設問した。過去も現在も母の就業率は30%程度である。

III 結果

III-1 結婚とライフコースに関する考え

1 結婚志向について

図1-1〈結婚に関する考え〉では、「あなたの結婚に関するお考えは、次のどれに当たりますか」の設問に対して、「一生結婚するつもりはない」は男性14（2.7%）女性6（0.8%）にとどまり、調査対象の男女ほとんどに結婚志向が認められた。しかし、その内訳は「理想的な相手が見つければ結婚するつもり」という条件付きのものが男性267（50.7%）・女性419（56.0%）と多く、これに比べ「現在相手はいないが、ある程度の年齢までに結婚するつもり」という適齢期を意識するものは男性152（28.8%）・女性225（30.1%）と少ない。男女ともに妥協せず理想の結婚を追い求めるものが多く、ほぼ同じ傾向が認められた。

図1-2〈結婚したい年齢〉は「あなたが結婚するとすれば、何歳ぐらいのときに結婚したいですか」の設問に対し「24歳までに結婚したい」が男性32（6.1%）・女性103（13.8%）、「25～29歳までに」が男性286（54.3%）・女性477（63.8%）となっており、「30歳未満までに」結婚したいものは男性318（60.4%）女性580（77.6%）を占めた。次いで「30～34歳まで」と回答した男性115（21.8%）・女性48

表1-1 調査対象の属性（1）^{注1}

		男性(527名)		女性(748名)	
		人数	%	人数	%
年齢	20歳未満	164	31.1	461	61.6
	20～24歳	330	62.6	268	35.8
	25～29歳	31	5.9	15	2.0
きょうだい	1人	40	7.6	51	6.8
	2人	305	57.9	466	62.3
	3人	154	29.2	198	26.5
	4人	21	4.0	26	3.5
	5人以上	7	1.3	4	0.5
現在同居している人	一人で	280	53.1	157	21.0
	親と同居	189	35.9	511	68.3
	きょうだいだけで	19	3.6	22	2.9
	上記以外の同性と	1	0.2	1	0.1
	上記以外の異性と	7	1.3	1	0.1
	寮生活	23	4.4	38	5.1
	親戚の家族と	5	0.9	7	0.9
	その他	3	0.6	8	1.1
育った家族形態	三世代	179	34.0	195	26.1
	核家族	327	62.0	516	69.0
	母子	6	1.1	10	1.3
	父子	0	0.0	1	0.1
	母子と祖父母	5	0.9	3	0.4
	父子と祖父母	1	0.2	1	0.1
	その他	9	1.7	19	2.5
母の就業	子どもの頃あり	182	34.5	228	30.5
	なし	282	53.5	461	61.6
	現在あり	182	34.5	228	30.5
	なし	328	62.2	498	66.6
両親の結婚年齢	父：34歳以下	490	93.0	713	95.3
	父：35歳以上	19	3.6	23	3.1
	該当なし	7	1.3	3	0.4
	母：29歳以下	480	93.0	709	94.8
	母：30歳以上	31	5.9	26	3.5
	該当なし	5	0.9	3	0.4

表1-2 調査対象の属性（2）

		男性(527名)		女性(748名)	
		人数	%	人数	%
中学の時	男女共学	444	84.3	577	77.1
	男女別学	38	7.2	90	12.0
	その他	1	0.2	2	0.3
高校の時	男女共学	368	69.8	474	63.4
	男女別学	117	22.2	191	25.5
	その他	6	1.1	10	1.3
大学短大	男女共学	518	98.3	362	48.4
	男女別学	3	0.6	360	48.1
	その他	0	0.0	18	2.4

（6.4％）を加えると、「35歳未満で」結婚したいものは男性82.2％・女性84.0％となる。「年齢は関係ない」は男性67（12.7％）・女性100（13.4％）と男女差がなかった。

男女いずれも「25～29歳」で結婚したいと考えるものが半数を越えており、男性は35歳前に、女性は30歳前におよそ8割のものが結婚することを希望しており、適齢期意識は健在である。しかし、前記の＜結婚に関する考え＞との関連で推察すれば、理想の結婚を追い求めた結果の実際の結婚年齢は、より高い方へシフトすることは予測されよう。

図1-3＜結婚相手の年齢の希望＞では、「あなたが結婚するとすれば、相手はどれくらいの年齢の人がよいですか」の設問に対し、男性の最多回答は「自分と同年齢くらいがよい」196（37.2％）にであり、女性の最多回答は「自分より年上がよい」276（36.9％）であった。次いで男女とも第2位は「年齢にはこだわらない」男性160（30.4％）・女性273（36.5％）となっていた。

この設問では、当然男女差が予測されたが、「男性が年上、女性が年下」という旧来の結婚の年齢差イメージは、男性に比べ女性の方がやや多く支持している。これは後に示す生き方のタイプの選択との関連で、女性が結婚や出産を期に仕事をやめるつもりであれば、相手の男性にはそれなりの経済力が必要であること、すなわち年上がよいということが考えられる。

^{注1} 無回答は省略。％は総数男性527、女性748に対する。
きょうだい人数は本人を含む。

2 結婚へのプレッシャーについて

図1-4<孤立プレッシャー>では「あなたは、友人の多くが結婚し、あなただけ結婚していない場合は、どのように感じると思いますか」との設問に、男性は「何も感じない」243 (46.1%) が最も多く、女性は「すこしあせりを感じると思う」428 (57.2%) が最も多い。「すこしあせりを感じると思う」「あせりを感じると思う」「かなりあせりを感じて、出来ればすぐにでも結婚したいと思う」を合わせると、男性は全体の52%、女性は全体の77.3%があせりを感じている。孤立プレッシャーを感じる者は男性に比べて、女性の方が多い。

図1-5<年齢プレッシャー>では「あなたが女性であれば30歳になった時、男性であれば35歳になった時に、結婚相手が決まっていなかった場合、あなたの結婚に対する周りのプレッシャーが高まったらどうすると思いますか」との設問に対し、「そろそろ結婚を考えるだろうが、積極的行動は起こさず成り行きにまかせるだろう」が男性252 (47.9%)・女性454 (60.7%)と男女ともに最も多く、これに比べ「結婚相手をみつけるための具体的行動を起こすだろう」は男性113 (21.4%)・女性149 (19.9%)と少ない。「理想と多少違って、妥協して結婚することを考えるだろう」は男性39 (7.4%)・女性31 (4.1%)と僅かである。

図1-4、図1-5の結果から、将来自分の結婚に対するプレッシャーが高まった時、あせったり動揺したりするであろうが、その程度は男女とも弱く、「結婚相手を見つけるための具体的行動を起こす」と考えている者は男女とも20%程度であることが分かった。しかも、「妥協して結婚する」としたものは僅かであるので、将来結婚のプレッシャーが高まったとしても、男女とも、あくまでマイペースで理想はあきらめないという、結果的に晩婚傾向になるであろうことが推察できる。

3 男性・女性それぞれの生き方のタイプ

図1-6、1-7-1、1-7-2は男性と女性それぞれが、これからの人生で結婚や仕事、子どもを持つことについてどのように考えているかを知るために<生き方のタイプ>を4通りの観点で選択してもらった結果である。<理想>とは「現実と切り離しあなたが理想とする人生のタイプ」、<実際>とは「あなたが実際になりそうな人生のタイプ」、<妻(夫)への希望>とは

「将来伴侶となる人に希望する人生のタイプ」、<女性(男性)だったら>は「もし自分が違う性に生まれたと仮定したら」を設定し、各々同じ9つの選択肢から選択してもらった。

3-1 生き方のタイプ「理想と実際」

図1-6で両者の<理想と実際>を概観すると、男性の<実際になりそうなタイプ>の1位は6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」366 (69.4%)に当然ながら集中し、2位は5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」78 (14.8%)、3位は2「結婚せずに一生仕事を続ける」34 (6.5%)でその他の選択肢を選んだものはわずかであった。

これに対し、男性が「理想の人生としたタイプ」の1位は実際と同じく6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」であるが、186 (35.3%)と比率は約半減している。2位も実際と同じく5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」であるが、こちらは155 (29.4%)と比率がおよそ倍増している。3位は1「結婚も仕事もしないで、自由に生きたい」90 (17.1%)で、実際になりそうなタイプ3.0%に比べ、14.1%多くなっている。

男性の半数近くが理想では「自由」を求めている。

女性の「実際になりそうなタイプ」の1位は7「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てを機会にいったん退職し、子育て後再び仕事をする」331 (44.1%)、2位は8「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てに機会に退職し、その後は仕事をしない」132 (17.6%)、3位は5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」102 (13.6%)である。

女性の「理想のタイプ」の1位は実際と同じく7「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てを機会にいったん退職し、子育て後再び仕事をする」であるが、209 (27.9%)と実際より16%少なくなっている。2位は5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」が184 (24.6%)と実際より11%多くなっている。3位は6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」171 (22.9%)であり、<実際>では4位 (10%)から比率も順位も上がっている。

女性の理想では、男性と同じく「自由」も実際に比べ多くなっているが、「仕事」を続けることへの、願望も現われている。

女性の理想では、男性と同じく「自由」も実際に比べ多くなっているが、「仕事」を続けることへの、願望も現われている。

以上、男性も女性も＜理想＞では回答が主な3つの選択肢に分散し、1位～3位までの比率の差が比較的小さい。すなわち＜理想＞は多様であるが、＜実際＞は男性は6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」に集中し、女性も7「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てを機会にいったん退職し、子育て後再び仕事をする」が最も多くなる。

次に、結婚する意志があるかどうかについて検討する。「結婚しない」としたものは選択肢1「結婚も仕事もしないで、自由に生きたい」と2「結婚せずに一生仕事をする」を選んだものである。男女の＜理想＞と＜実際＞で「結婚しない」ものを比較すると、男性が理想とした選択肢1の17.1%を除き、男女の＜理想＞と＜実際＞で「結婚しない」としたものはいずれも6%以下と非常に少ない。選択肢1と2をあわせた非婚傾向は、男性の＜理想＞では22%、女性の＜理想＞では7%と男女間で差があるが、実際の非婚傾向と言える男性の＜実際＞は9%、女性の＜実際＞は7%と男女の差が認められない。すなわち、男性の＜理想＞に最も非婚傾向がみられる。

子どもを持つかどうかについては、持つとしたものは、選択肢6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」、7「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てを機会にいったん退職し、子育て後再び仕事をする」8「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てに機会に退職し、その後は仕事をしない」の合計である。子どもを持つ意志のあるものの合計は、男性の＜実際＞では69%、女性の＜実際＞では74%、男性の＜理想＞では38%、女性の＜理想＞では61%であった。男女とも、＜理想＞より＜実際＞のほうが子どもを持つ可能性が高くなっており、理想と実際の違いは男性は31%、女性は12%と男性の方がギャップが大きい。

実際は男女とも70%程度のものは子どもを持つことを予定しているという結果であるが、これに加えて選択肢5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」を＜実際＞で選択した男性15%、女性14%のうちいくらかは、結果的に子どもを持つことになるであろう。これを加味しても、子どもを持つことに関する実際の選択に男女の差があることは予測できず、大多数（70～80%）の男女は実際に親になることを予定していると言えよう。

以上、男性と女性の選んだ人生のタイプを見ると、理想と実際に多少のギャップがみられたが、結局のところ、実際に自分になると思う人生のタイプでは、結婚して子どもを持つと思っている男女が大勢を占めて

いた。大学生男女の結婚志向は健在であり、将来の非婚傾向は強くないといえよう。

しかし、男性の理想では「結婚も仕事もせず自由に自由に生きたい」としたものが女性より多いこともわかった。このことは、現在非婚晩婚傾向が女性の高学歴化など女性側に理由の重さがあるように論じられがちであるが、男性の意識の中に、できるなら結婚しないで生きたいという非婚傾向が女性以上にあることを示しているといえよう。

3-2 生き方のタイプ＜妻（夫）への希望＞と＜女性（男性）だったら＞

＜妻（夫）への希望＞とは「将来伴侶となる人に希望する人生のタイプ」、＜女性（男性）だったら＞は「もし自分が違う性に生まれたと仮定したら」で前項人生の理想と実際と同じ選択肢を設定し、選んでもらった。本設問は、今回追加した項目であるので、女性の集計対象は本年度の回答者194名である。

図1-7-1で男性を概観すると、男性の＜妻への希望＞の1位は7「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てを機会にいったん退職し、子育て後再び仕事をする」166（31.7%）、2位は8「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てに機会に退職し、その後は仕事をしない」140（26.6%）、3位は5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」104（19.7%）、4位は6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」72（13.7%）と回答が分散し多様である。そして、もし自分が＜女性だったら＞については、選択肢8が25.0%、7が20.5%、5が17.3%、6が12.7%と全体に少しずつ下がっているが、7が11%下がっている以外は＜妻への希望＞と似通った数字である。これらと反対に、＜妻への希望＞より＜もし自分が女性だったら＞の方が比率が高くなっているのは、1「結婚も仕事もしないで、自由に生きたい」＜妻へ＞1.5%→＜女性だったら＞10.2%、2「結婚せずに一生仕事をする」＜妻へ＞0.8%→＜女性だったら＞5.3%などである。

女性の＜夫への希望＞は当然のことながら6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」に154（79.3%）と集中し、次いで5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」20（10.3%）、3「結婚はするが、子どもを持たずに、仕事を一生続ける」11（5.7%）、その他の選択肢は3%未満であった。もし自分が＜男性だったら＞では、1位は＜夫への希望＞と同じく、6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」であるが、107（55.2%）と

＜夫への希望＞より24%少なくなり、一方2位の5.「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」は33（17.0%）と7%増えている。他にも＜夫への希望＞よりもし自分が＜男性だったら＞で増えているものは、1「結婚も仕事もしないで、自由に生きたい」＜夫へ＞0%→＜男性だったら＞5.7%、2「結婚せずに一生仕事をする」＜夫へ＞1.0%→＜男性だったら＞7.2%などである。

＜将来の結婚相手への希望＞と＜自分が実際と異なる性に生まれていたら＞とを比較した結果、男女いずれも前者より後方で「自由に生きたい」「結婚しない」「その時次第」など束縛のない生き方を希望する傾向がみられた。

次に、男女の互いへの希望のマッチングをみるため、男性の＜妻への希望＞と女性の＜実際＞を図1-7-2に示した。選択肢5から8について比較すると、選択肢5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」は男性19.7%・女性13.6%、選択肢6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」は男性13.7%・女性11.6%、選択肢7「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てを機会にいったん退職し、子育て後再び仕事をする」は男性31.5%・女性44.3%、選択肢8「結婚して子どもを持つが、結婚あるいは子育てに機会に退職し、その後は仕事をしない」は男性26.6%・女性17.6%、となっており、選択肢7.8の子育て後再就職か、専業主婦かで若干の差は認められるが、全体としては大きなギャップがあるとは言えない。

同様に女性の＜夫への希望＞と男性の＜実際＞を選択肢5、6について比べると、選択肢5「結婚はするが、子どもや仕事のことはその時の状況次第で、自由に生きたい」は女性10.3%・男性14.8%、選択肢6「結婚して子どもを持ち、仕事を一生続ける」は女性79.4%・男性69.4%となっており、大きなギャップがあるとは言えない。

すなわち、＜夫（妻）への希望＞と＜男性（女性）の選んだ実際＞で選択されたタイプの比率に男女のギャップが小さいということは、あくまで数の上ではあるが、人生のタイプにおいて希望どおりの結婚相手が見つけれられる可能性は低いということである。

4 出生率低下や非婚晩婚傾向に関する一般論

図1-8及び図1-9では、自分の結婚とはやや距離を置き、一般論として現在の出生率低下や非婚晩婚傾向

に対する考えを設問した結果である。なお、質問紙配布時の都合で図1-8の設問5および図1-9の設問10～12の女性の合計が628名となっている。

図1-8「出生率低下に対する考え」では、1＜非婚・晩婚によって出生率が下がると、日本の労働力が低下して、経済に悪影響を及ぼす＞に「そう思う」が「少し～非常に」を合わせて女性72.7%・男性69.7%、5＜出生率が下がると、高齢人口を支えられなくなる＞に「そう思う」が「少し～非常に」を合わせて女性96.3%・男性93.5%と出生率が下がることを良いとは思っていないものが多い。中でも5＜高齢人口を支えられなくなる＞は「非常にそう思う」が女性53.8%・男性49.4%と最も多い。3＜日本の人口が減っても、世界的規模で見ればむしろ増えているので、問題ではない＞では「そうは思わない」女性54.8%・男性56.2%、4＜日本は土地が狭いので、人口は減った方がよい＞に「そうは思わない」女性53.0%・男性45.5%と約半数が否定的であり、人口が減ってよいと思っているものはとそうでないものはおよそ半々である。

一方、2＜結婚は個人の自由な選択によるものだから、国や社会が口を出すべきではない＞は「少し～非常に」を合わせて女性96.0%・男性91.2%とほとんどが「そう思う」と回答している。

すなわち、「出生率低下は社会的に困ることだが、だからといって、結婚という個人の自由は侵されたくない」と考えているものが多いのは、男女共通であった。

図1-9「非婚・晩婚が増えた理由に関する考え」では「少し～非常に」を合わせた「そう思う」の割合で検討した。全体をみると、用意した12項目のうち、男性は10項目、女性は12のすべての項目で、過半数が「そう思う」とし、非婚晩婚の理由として肯定するものが多かった。ただし、順位では男女にいくらか違いが認められた。男女別に「そう思う」としたものの多い順にあげると表1-3-1、1-3-2のとおりである。

全体の傾向を1位からみていくと、男女とも肯定が圧倒的に多いのが1位＜女性の高学歴化や、女性に経済力がついたからである＞（女性94.5%、男性84.8%）、2位＜独身生活の方がレジャーを楽しめるからである＞（女性90.9%、男性81.8%）で、いわゆる「女性の地位の向上」と「独身の利点」である。その中でも更に女性は男性より肯定率が高い。特に、前者は「非常にそう思う」女性38%、男性25%と他の項目に比べても肯定度が高い。

これらに続いて男女とも3位は1.「男性と女性それぞれの結婚相手に対する要求のミスマッチのため」（男性77.0%、女性76.4%）であり、男性の4位は3「対

表1-3-1 非婚・晩婚の増えた理由

女性「そう思う」（少し～非常にの合計）の多い順

順位	項目	%
1	6 女性の高学歴化や、女性に経済力がついたからである	94.5
2	11 独身生活の方がレジャーを楽しめるからである	90.9
3	1 男性と女性それぞれの結婚相手に対する要求のミスマッチのためである	76.4
4	12 結婚しなくても特に非難されないからである	75.3
5	9 住宅や子育てなどの環境が整っていないからである	72.2
6	10 親と一緒に暮らしていて不自由さを感じないからである	62.9
7	8 家事代行やコンビニの普及で一人でも生活していけるからである	63.6
8	4 男性が性格的に弱くなったからである	60.6
9	5 マザコン、ファザコンの若者がふえたからである	60.1
10	2 異性と知り合うチャンスやゆとりが少ないからである	58.8
11	7 結婚しなくても、セックスが自由にできるからである	52.6
12	3 対人関係が苦手な若者がふえたせいである	52.0

表1-3-2 非婚・晩婚の増えた理由

男性「そう思う」（少し～非常にの合計）の多い順

順位	項目	%
1	6 女性の高学歴化や、女性に経済力がついたからである	84.8
2	11 独身生活の方がレジャーを楽しめるからである	81.8
3	1 男性と女性それぞれの結婚相手に対する要求のミスマッチのためである	77.0
4	3 対人関係が苦手な若者がふえたせいである	72.8
5	12 結婚しなくても特に非難されないからである	68.6
6	9 住宅や子育てなどの環境が整っていないからである	64.7
7	4 男性が性格的に弱くなったからである	63.4
8	7 結婚しなくても、セックスが自由にできるからである	61.9
9	8 家事代行やコンビニの普及で一人でも生活していけるからである	58.8
10	2 異性と知り合うチャンスやゆとりが少ないからである	55.3
11	10 親と一緒に暮らしていて不自由さを感じないからである	49.2
12	5 マザコン、ファザコンの若者がふえたからである	48.7

人関係が苦手な若者がふえたせいである」72.8%である。現代の若者にとって、「男女の対人関係」が非婚晩婚の理由のひとつとして「女性の地位の向上」と「独身の利点」の次に捉えられている。

続いて女性の4位、男性の5位は12.「結婚しなくても特に非難されないから」女性75.3%、男性68.6%、女性の5位、男性の6位は9.「住宅や子育てなどの環境が整っていないから」女性72.2%、男性64.7%と「社会環境的」理由が挙げられている。

3位までは男女で同じ項目が占めたが、4位以下で若干の男女差があった。3「対人関係が苦手な若者がふえたせいである」で男性の72.8%が肯定しているのに対し、女性は52.0%に止まり、順位としては男性では4位、女性では12位（最下位）であった。反対に男性に比べ女性に肯定が多いものは、10.「親と一緒に暮らしていて不自由さを感じないからである」女性65.9%（6位）に対し、男性49.2%（12位）であった。

このように、男女では順位に若干の違いがあるが、いずれの項目も非婚晩婚傾向の理由として肯定意見が多くを占め、「女性の社会的立場の変化」「独身の利点」「住宅や育児環境など社会環境の整備の必要性」「結婚へのプレッシャーの減退」は非婚晩婚傾向の理由として既に指摘されているとおりであった。しかし、これ以外に男女ともに「男性と女性それぞれの結婚相手に対する要求のミスマッチのため」が3位という上位に位置している。これについて、前項・3の人生のタイプの選択の結果から以下のように考察した。

設問中の「相手に対する要求」の内容は「人生の生き方のタイプ」のみではないが、結婚を考える段階では重要な要素となろう。人生のタイプの選択で示したように、＜将来の結婚相手へ希望する生き方＞のタイプ別の割合と、＜実際に男女が選択するであろうとした人生のタイプ＞別のそれぞれの割合は、男女間のギャップが大きくなり、数の上では希望の相手は存在していた。

（例：男性の妻への希望で「結婚して子どもを持ち一生仕事をする」13.7%に対し、実際にこのように生きるとした女性は11.6%であった。）

しかし、当然のことながら、男性と女性が個人対個人で向かい合った時に、前項に示した人生のタイプの選択における男性の＜妻への希望＞の多様性、女性の＜理想の生き方＞の多様性、女性の＜理想＞と＜実際＞との間で揺れ動く気持ちが、男女の要求のミスマッチを多発することは十分考えられるのである。

5 まとめ

男女大学性の将来像は結婚して子どもを持つであろうとしたものが、大半を占め結婚志向は健全といえた。しかし、その結婚観は「理想的な人に巡り会えば結婚する」という者が男女ともに半数を占めており、また周囲の結婚に対するプレッシャーに動じる者も少ない。結婚志向が健全と言っても、結果的に非婚・晩婚傾向になることが伺えた。

一般論としての非婚・晩婚の理由としては「女性の地位の向上」「独身の利点」に次いで、「男女のミスマッチ」「対人関係」の問題があげられた。独身の利点を犠牲にしてまで結婚したいと思える相手に出会ったとしても、互いの要求のミスマッチを調整し、男女間の対人関係のハードルを超えなければ結婚できないことを、現代の若者は認識していた。

本報告の目的である男女の比較では、結婚志向においては大きな差異は認められなかったが、非婚・晩婚の理由についての考えや、男女の将来像の比較ではそれぞれの傾向が認められた。すなわち、上記の対人関係の問題は男性においてより顕著であった。また、将来の理想として、「自由」を希求するものが男性の半数近くと女性より多くみられ、結婚は男性にとっても拘束感というマイナスイメージの強いことが明らかになった。子どもを持つことに関しても、男女とも実際に比べ理想において消極的であり、更に男性は女性に比べ、消極的であった。

一般に「結婚は女性に不利」といわれるが、現代の結婚制度、子育てを含む結婚生活といった結婚のあり方に対して、女性のみならず、男性からも疑問が投げかけられているといえる。結婚志向の裏に潜在する若者の非婚願望が、今後の婚姻率の動向を左右することは否定できないであろう。

文 献

- 1) 宮原忍、他：非婚晩婚の母子保健学的研究（第1報）日本総合愛育研究所紀要 第31集、P55-68、1994
- 2) 宮原忍、他：非婚晩婚の母子保健学的研究（第2報）日本総合愛育研究所紀要 第32集、P58-76、1996
- 3) 厚生省人口問題研究所：平成4年度独身青年層の結婚観と子ども観「第10回出生動向基本調査」、1994年4月、厚生省統計協会

図1-1 結婚観（％：女性N=748、男性N=527）

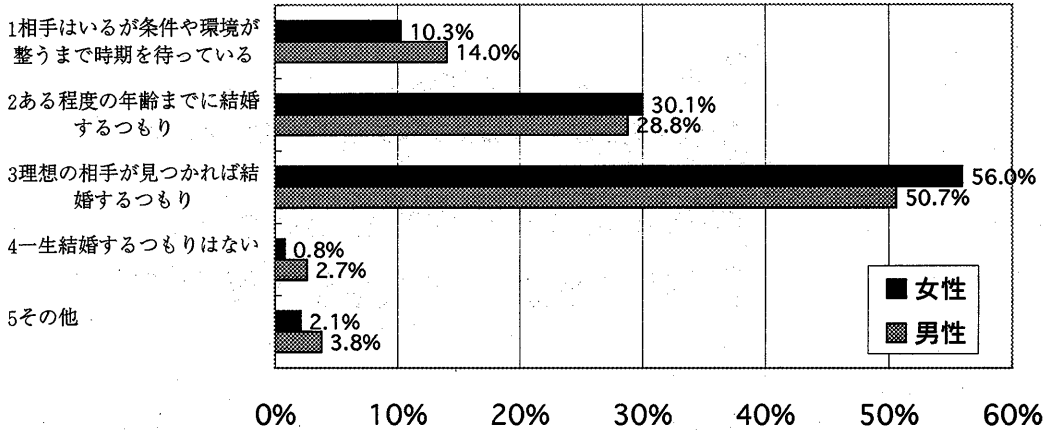


図1-2 結婚年齢（％：女性N=748、男性N=527）

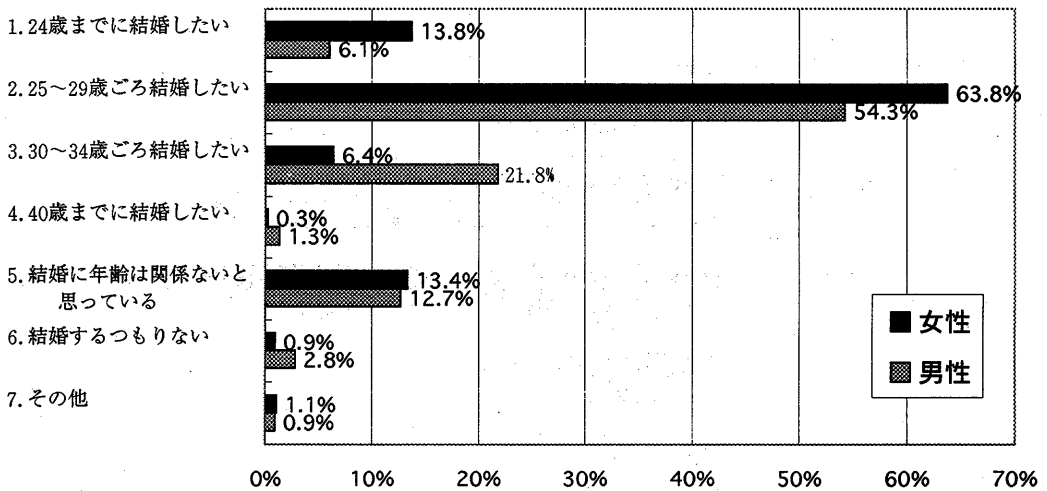


図1-3 相手の年齢（％：女性N=748、男性N=527）

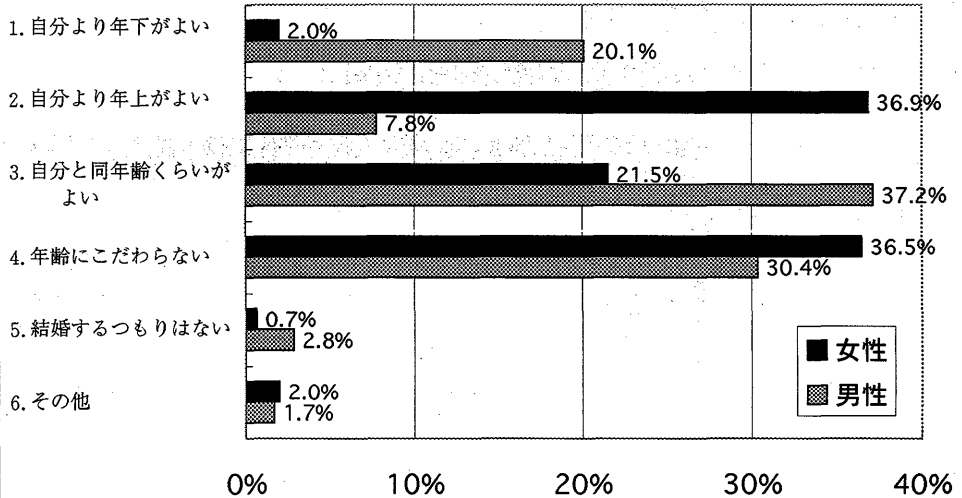


図1-4 孤立プレッシャー

「友人の多くが結婚しあなただけ結婚していない場合は、どのように感じますか」（％：女性N=748、男性N=527）

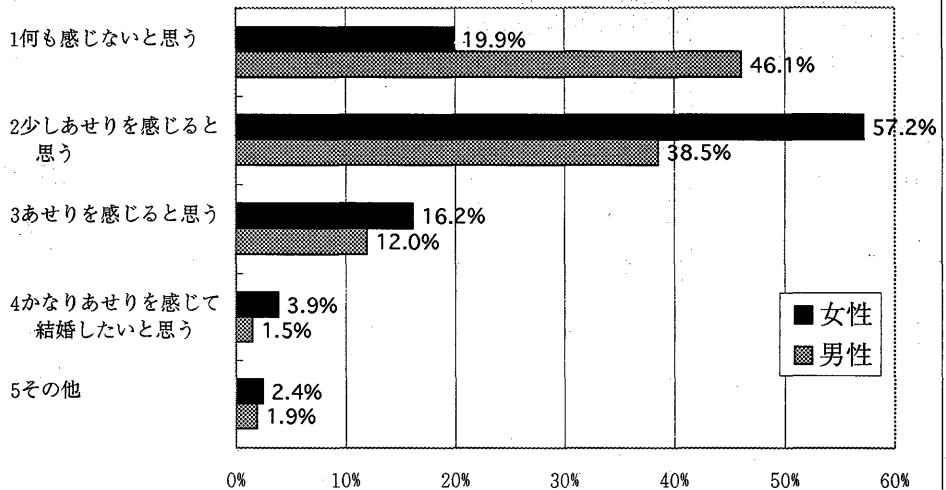


図1-5 年齢プレッシャー

「あなたが女性であれば30歳に、男性であれば35歳になった時に結婚相手が決まっていない場合、あなたの結婚に対する周りのプレッシャーが高まったらどうだと思いますか」（％：女性N=748、男性N=527）

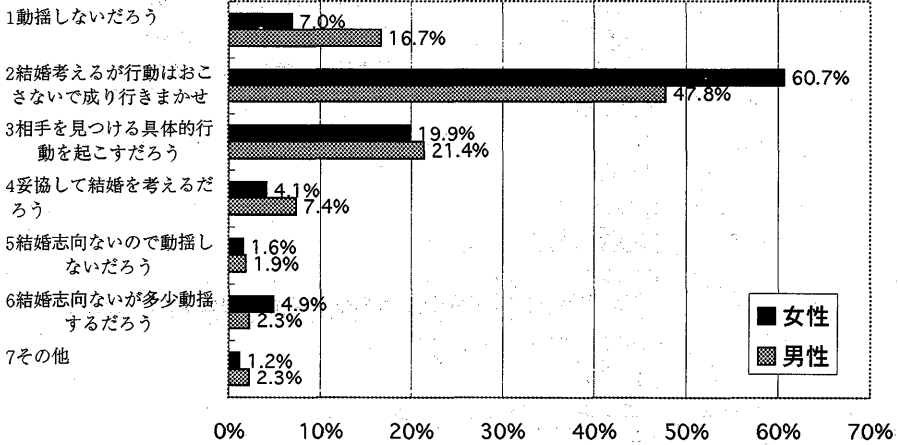


図1-6 男女の生き方＜理想と実際＞

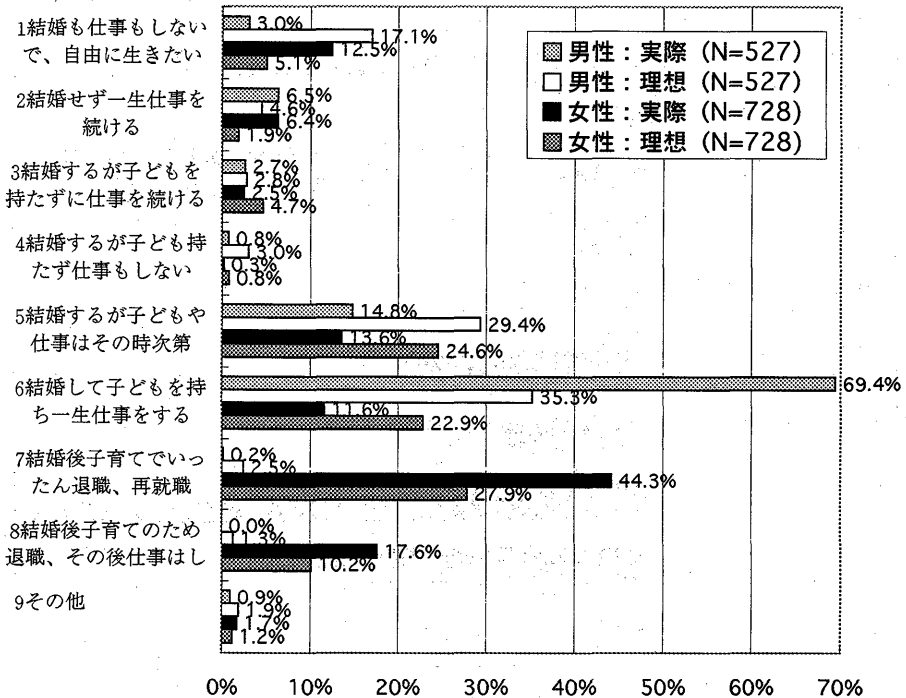


図1-7-1 男女の生き方＜伴侶への希望と違う性であったら＞

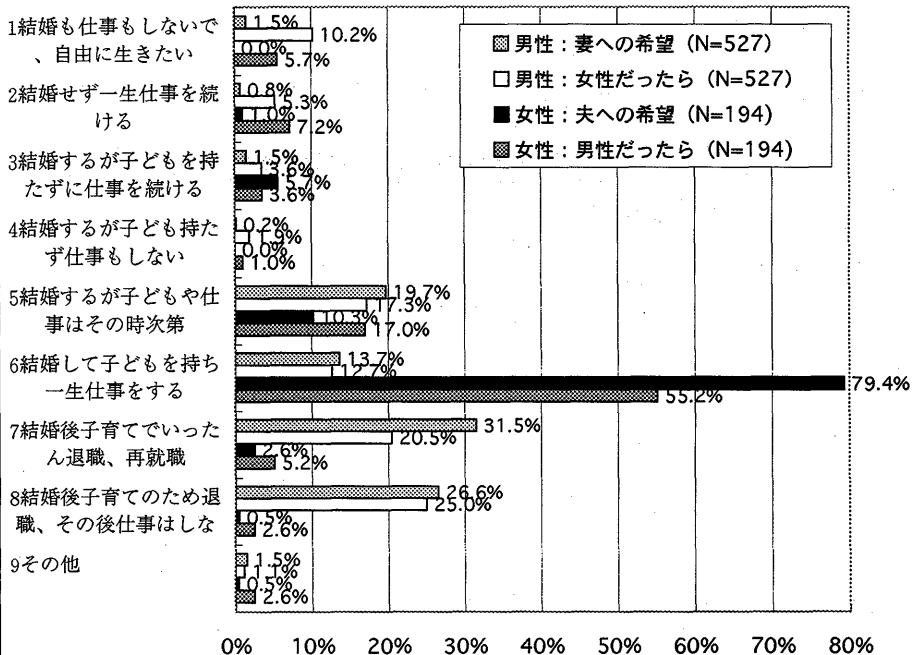


図1-7-2 男性の＜妻への希望＞と女性の＜実際＞

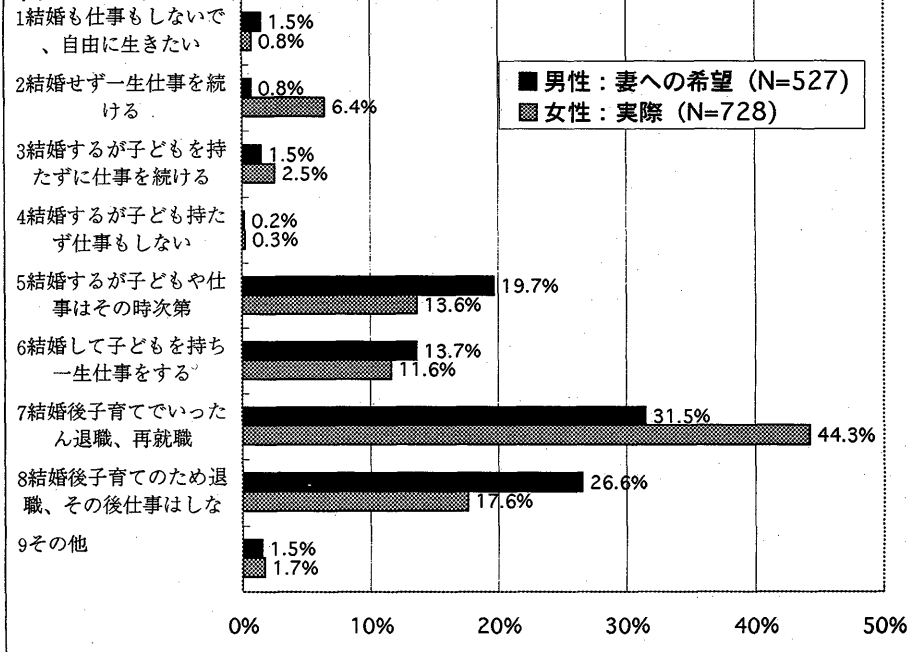


図1-8 出生率低下の理由に関する考え（%：無回答を除く）

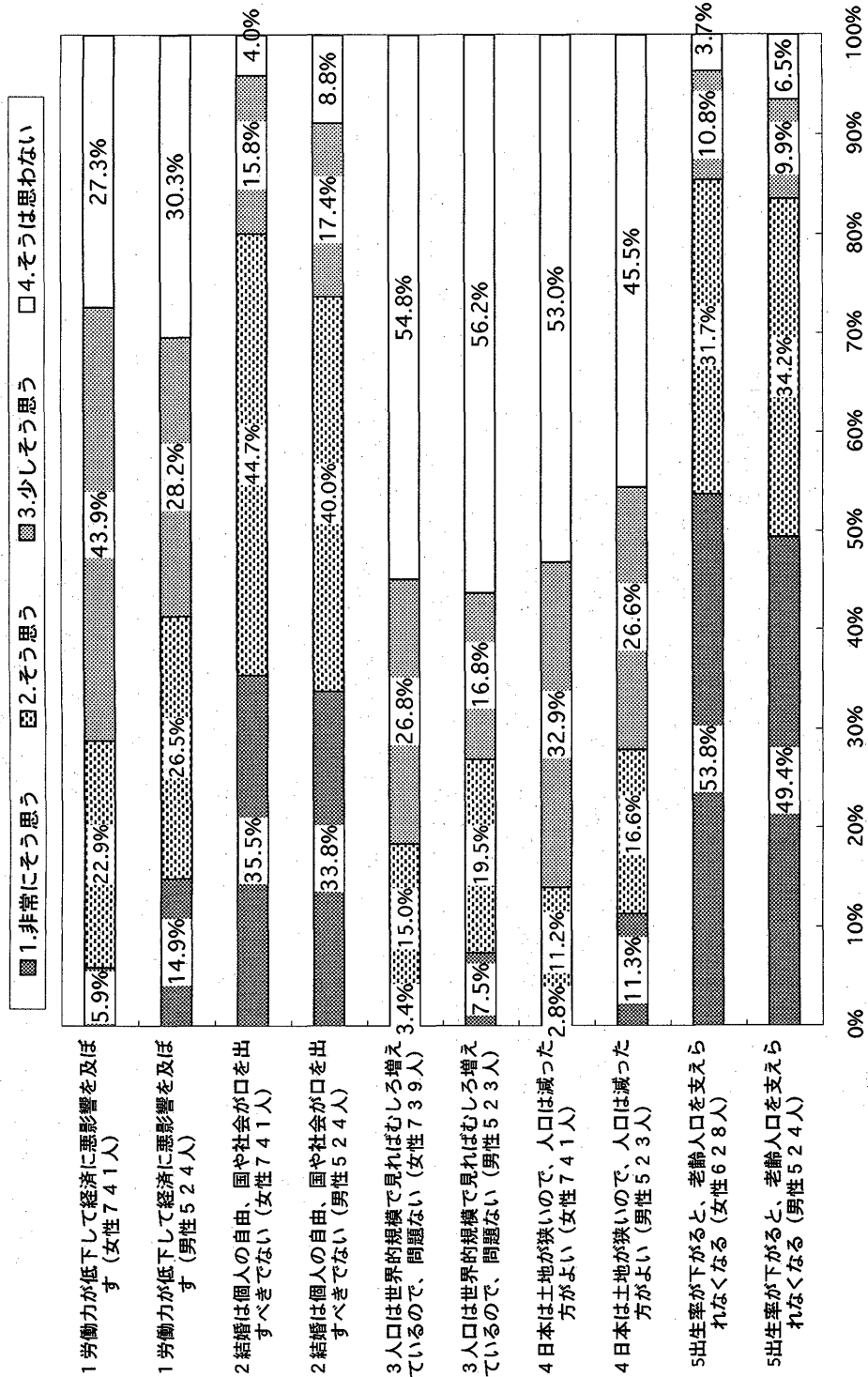
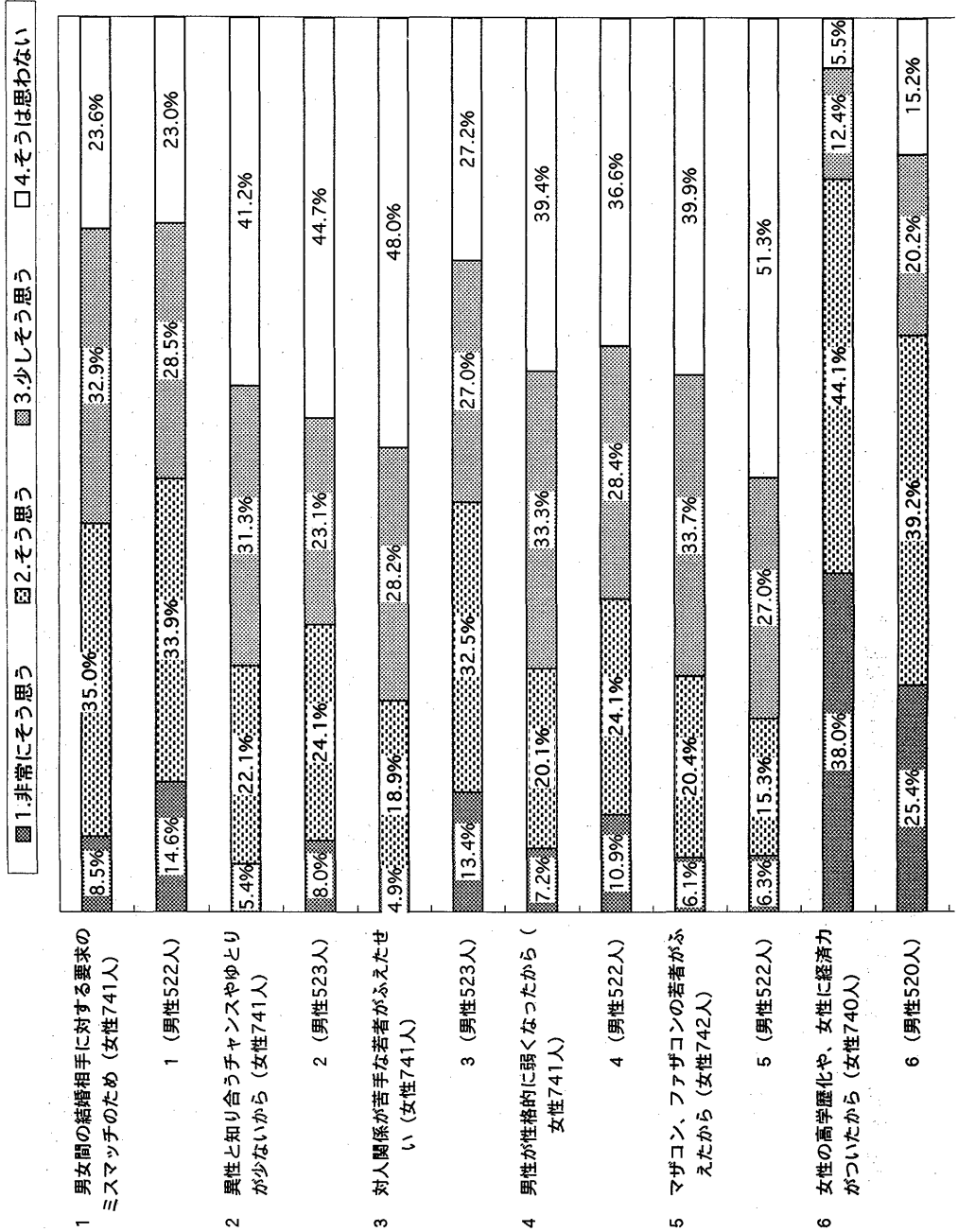
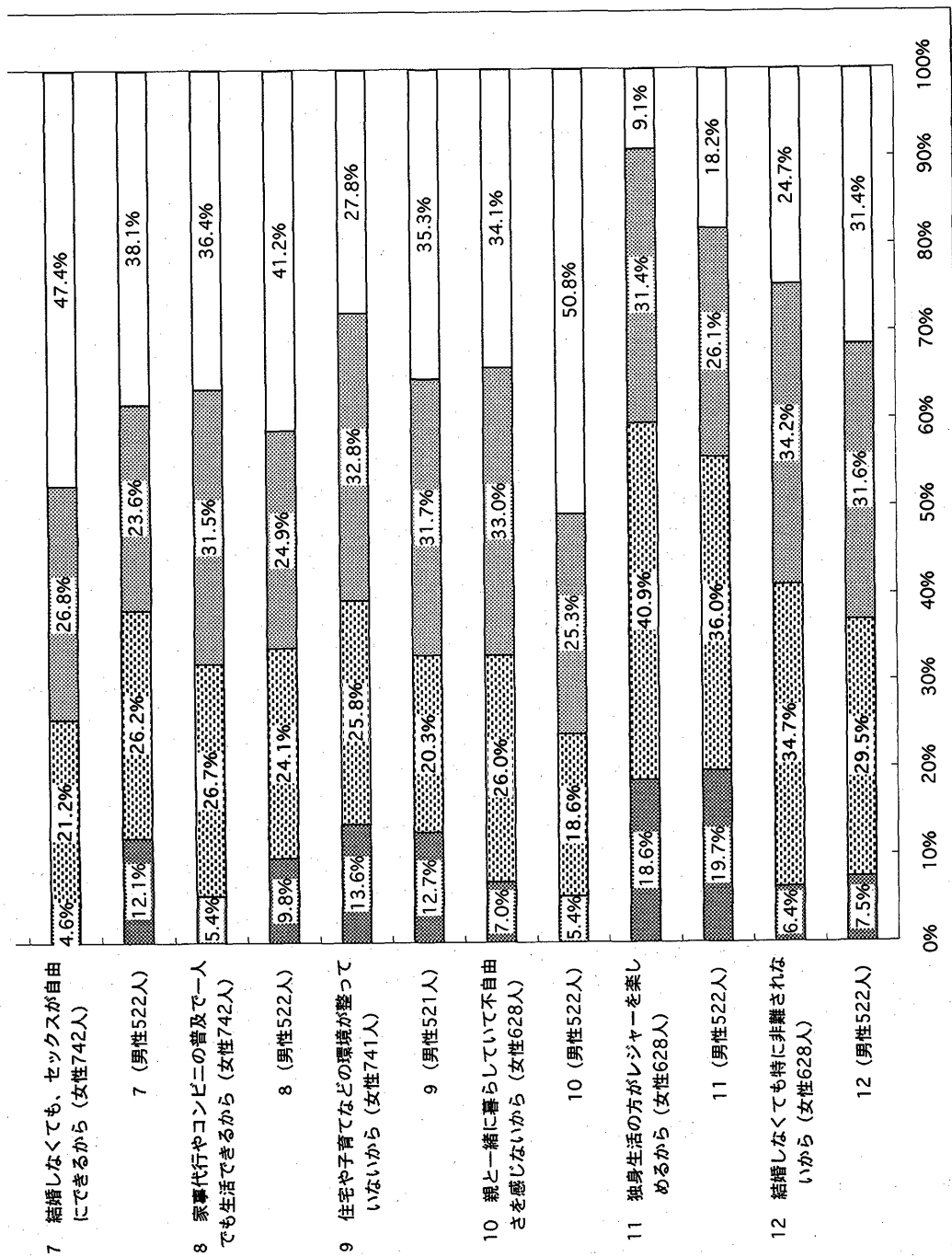


図1-9 非婚・晩婚が増えた理由に関する考え（無回答を除く％）





Ⅲ-2 父親像イメージ及び母親像イメージ

1 目的と方法

本年度は、未婚男子学生の父性・母性意識を心理学的な態度・行動という面でとらえ、未婚男子学生の父親像イメージと将来の伴侶(妻)に望む母親像イメージ等について検討する目的で、昨年度と同様に次のような調査を実施した。

調査は、親の役割に対する態度・行動の要因を形成するといわれている父親及び母親像イメージについて30項目を作成し、各項目について[①非常にそうは思わないから～⑦非常にそう思う]までの7段階スケールで質問をした。なお、親特性を見る尺度としての30項目及び未婚女子学生の調査結果は、紀要第32集で報告したので参照されたい。

本年度は次のように検討を行った。

- (1) 未婚男子学生の各父親像イメージ(下記)の平均得点の検討
 - ・将来なるであろう父親像(将来像)
 - ・理想とし志向する父親像(志向像)
 - ・社会が期待する父親像(被期待像)
- (2) 未婚男子学生の各父親像イメージの因子分析
- (3) 未婚男女がその伴侶に求める親イメージの特徴とその比較検討
 - A伴侶に求める親イメージの平均得点の特徴と比較
 - B伴侶に求める親イメージの因子分析の検討
- (4) 未婚男女の結婚観と親イメージの特徴とその比較検討

前年度は女性の結婚観と親イメージについては報告しなかったもので、男子学生の結果と併せて本年度報告する
- (5) まとめと考察

2 結果

- (1) 対象の父親イメージの平均得点の検討

(表2-1)

A 各父親イメージの特徴

将来、あなたはどのような父親になると思うかという[将来像]、あなたは将来どのような父親を理想とし志向するかという[志向像]

について、そして日本の社会(世間)はどのような父親を期待しているかと[被期待像]について、30項目の質問をした。

前述の三つの父親イメージともに、26-27項目において(そう思う一平均得点4.0以上)という積極的な反応をする傾向が認められた。

なお、これら父親像イメージについて以下次のように表す。

[将来の父親イメージ]-----[将来像]

[志向する父親イメージ]-----[志向像]

[社会が期待する父親イメージ]-[被期待像]

平均得点からの特徴を見ると、各父親像イメージにおける第一位の高得点の項目は、<家族を支える>項目で共通している。経済的・精神的な意味において責任を持つ役割であると認識されているといえよう。

a [将来像]

<思いやりのある・現実的・穏やか・好奇心旺盛・共感的>と、他者に対する情緒的な態度が示され、次には<耐える・包み込む・待つことができる・世話>等の養育性があげられている。そして、<視野が広い・自分の考えを通す・頼もしい・社会の常識を重視する>等の社会に対する態度を示す項目である。

対象の男性が将来なるであろうと描く将来の父親イメージの特徴は、<やさしく世話をする養育的父親像>のイメージである。

b [志向像]

<決断力・頼もしい・視野が広い>等の意志的・行動的な項目があげられ、次に<思いやり・包み込む・感情表現の豊かな、耐える・共感性>等の他者に対する情緒的な態度の項目が示され、続いて<世話・献身的・保護的>等の養育性の項目、そして<合理的・客観的・論理的・社会の常識を重視>等の項目が続く。将来こうなりたいと志向する父親イメージの特徴は、<明るくやさしく、リーダーシップのある父親像>のイメージである。

c [期待像]

<決断力・頼もしい・視野が広い・社会の常識を重視>等の意志的・態度的項目があげられ、次に<思いやり・包み込む・現実的・耐える・世話・献身的>等の情緒性と養育性の項目が示され、続いて<厳格な・理的な>等の項目であった。社会が期待している父親イ

メージとしての特徴は＜やさしさのあるやや保守的な父親像＞のイメージである。

B 各父親像イメージの平均値の比較

[将来像]と[志向像]及び[被期待像]間の各項目の平均値の差の検定（t検定）を行った。

その結果、これらの三つの父親像イメージ間で1%または5%の危険率で差が認められた項目について次のように検討した。

*＜厳格な・献身的・合理的＞の項目は、1%の危険率をもって将来像より志向像の方が、志向像よりも被期待像の方が、当然将来像よりも期待像の方が平均得点が1%の危険率で高い。これを不等号で表すと以下のようになる。

将来像＜志向像＜期待像

*＜家族を支える・決断力・客観的・指導力・保護的・世話・耐える・しなやか＞の項目では、志向像と期待像間には有意差はなく、志向像・被期待像の平均得点は将来像に比較し1%の危険率で高い。

将来像＜志向像・被期待像

*＜現実的・論理的・常識的・従順＞の項目では将来像と志向像間には有意差はない。被期待像ではより＜現実的・論理的・社会の常識を重視、従順さはどちらともいえない＞とし、将来像や志向像では＜従順さ＞のある父親を否定している。被期待像の方が5%の危険率で高い。

将来像・志向像＜被期待像

*＜素直・純粋・穏やか・包み込む・待つ・思いやりのある・共感性・感情表現の豊かな・視野の広い・頼もしい＞の項目では、1%の危険率で志向像の平均得点が高い。

将来像＜被期待像＜志向像

*＜好奇心旺盛な＞の項目では、将来像と被期待像間には有意差はないが、志向像では1%の危険率で平均得点が高い。

将来像・被期待像＜志向像

*＜依存性＞の項目では、将来像と被期待像では有意差はないが、志向像の方が1%の危険率で＜依存性＞のある父親を否定している。

志向像＜将来像・被期待像

*＜支配的・自己本位な＞の項目では、将来

像が他の二つの像に比べ1%の危険率でどちらともいえないとし、積極的に否定していない。志向像では＜支配的・自己本位な＞父親を否定している。

志向像＜被期待像＜将来像

*＜自分の考えを通す＞の項目は、三つの父親イメージの間では有意差はなく、やや＜自分の考えを通す＞ような父親でありたいと思っている。

未婚の男子学生が、理想とし志向する父親イメージは、暖かくやさしくかつ好奇心もあり感情表現も豊かである。そして、視野が広く・決断力・客観性・指導力があり、家族を支える頼もしさもあり、家族の世話をする父親像といえよう。支配性や自己本位なところや依存性や従順さあまりなく、また厳格的ではない父親像である。

つまり、昔の父親像のような保守性や支配性のない、＜明るく社会性もあり、世話等もする家庭的な父親＞イメージを描いているといえよう。

自分はこんな父親に将来なるであろうという[将来像]の父親メージは、理想ほどには行えないが、志向する父親イメージと類似している。だが、包み込む・思いやり等の他者に対する情緒性や、決断力や客観性等のリーダーシップ性や、そして家族を支える力に等に関しては、得点が低い傾向がある。これは、まだ現実感がないからであろう。

社会が期待する父親イメージについても、他の二つのイメージと類似している。だが、厳格的・献身的・合理的・論理的・社会の常識を重視する・従順性においては、他の二つに比べ有意に得点が高く、社会が期待する父親イメージの中に、やや保守性と厳格性をみている。

C 各父親イメージ間の相関（表2-2）

各父親イメージ間の相関は高い。将来像と志向像とで0.796、将来像と期待像では0.720、志向像と期待像では0.879である。

相関係数も高く、三つの父親像のイメージは類似していると言える。従順性の項目以外は、反対のイメージを表す項目は認められな

かった。各項目ともどのくらい（そう思う）かという思い方の強さの違いである。

対象の男性は、優しく共感性もあり情緒性があり、包容性や世話もするといった父親像をイメージしている。

これらの相関を分析し、三つの父親像の間にはどのような類似性等があるのかを明らかにする目的で次に因子分析を行う。

（２）父親像イメージの因子分析の検討

（表 2-3-1）

A 父親像イメージの因子分析

a [将来像]

次の四つの因子が抽出された。

- * 第一因子は、指導力・決断力・頼もしい・視野が広い等という管理能力のあるリーダーシップのある父親像のイメージが認められ＜意志的因子＞とする。
- * 第二因子は、世話・思いやり・共感的・穏やか等という他者に対する温和な親性と受容性が認められ＜情的因子＞とする。
- * 第三因子は、純粋な・素直な・しなやか等という性質性が認められ＜感性因子＞とする。
- * 第四因子は、非支配的・自分の考えを通す等で、自己主張性があり＜態度因子＞とする。

b [志向像]

次の四つの因子が抽出された。

- * 第一因子は、決断力・頼もしい・思いやり・視野が広い・家族を支える・指導力・感情表現の豊かな・包み込む等の献身性とリーダーシップ性が認められ、＜意志的・情的＞とする。
- * 第二因子は、論理的・客観的・穏やか等の温和性な理性が認められ、＜知的因子＞とする。
- * 第三因子は、純粋・しなやか・素直等でのびやかであり＜感性因子＞とする。
- * 第四因子は、非依存的・非支配的・非従順等で、人に対する態度が中立的であることが認められ＜態度因子＞とする。

c [被期待像]

次の四つの因子が抽出された。

- * 第一因子は、純粋・しなやか・素直・包み

込む・待つことができる等であり、温和な親性とのびやかな性質が認められ、＜情的・感性因子＞とする。

- * 第二因子は、決断力・頼もしい・家族を支える・指導力・待つこと・視野が広い等と、忍耐強いリーダーシップ性が認められ＜意志的因子＞とする。

- * 第三因子は、合理性・社会常識を重んじる・論理的・従順な等で保守的で理性的であることが認められ、＜知的因子＞とする。

- * 第四因子は、非支配的・非自己本位・自分の考えを通す・厳格な等であり強靱な態度が認められ＜態度因子＞とする。

B 因子分析からみた各父親像の特徴

各父親像イメージに抽出された因子を検討すると、＜意志的＞＜情的＞＜感性的＞＜知的＞＜態度＞と考えられる因子が抽出された。これらは父親イメージの中核をなす因子と考えられる。因子の組み合わせにより、献身的な親性、リーダータイプの親性、保守的な親性というような親性の特徴が認められた。

a [将来像]の特徴

将来の父親像は、管理能力のある頼もしいリーダータイプで、人間関係においては共感的で思いやりがある。強さをもって事に当たれる態度をもち、個人的には素直で柔軟性のある性質がある。自分が将来なるであろう父親像には、＜スマートなリーダータイプの父親＞をイメージしている。好感度の高い父親をイメージしているともいえる。

b [志向像]の特徴

包容力や指導力のある、頼りがいのあるリーダータイプで知的で感性もある。そして、中立的な態度で事に当たるという成熟した父親像で、＜大樹のような父親＞をイメージしている。

志向像では、将来像で描いた第一因子と第二因子を統合したものを第一因子としており、対象の男性の志向する父親イメージには、より成熟した男性になりたいという願望があると推察できよう。自分になるであろうと思う父親像と理想とする父親像とのイメージの乖離は少ない。

c [被期待像]の特徴

穏やかで共感的で包容的で優しく、そして家族を支える等の諸々の力も備えているが、どちらかというところでは保守的であるという＜従順なタイプの父親＞を、社会が期待している父親像としてイメージしている。

c 父親イメージの因子分析における比較検討

a [将来像]を他の父親像と比較すると、管理能力のあるリーダーシップ性のイメージがあるといえる。これは対象が男子学生であり、これから社会人になっていくので、社会人として男性に求められる要素を重視しているといえよう。若い男性がまず身につけたいリーダーシップ性が第一因子として抽出されたと考えられる。

他の二つの父親像では因子負荷量が大きい＜家族を支える＞項目は、将来像では因子負荷量が小さい。自分が父親になるという未来形の話では、家族を支えるイメージを描きにくいというのも当然といえよう。

しかし、第二因子では世話・耐える・思いやり等の項目があり、人間関係は温和で暖かい情緒的なものがある。

第一・第二因子・第三因子の特徴を総合してみると、有能で共感的でやさしく、好感度の高い青年像の延長線上の父親像といえよう。

b [志向像]の第一因子の構成項目は、将来像の第一因子と第二因子をあわせた項目であり、志向像の方がより包容性と養育性のあるリーダーシップ性が認められる。将来、理想とし志向する父親像には、しっかりとした大黒柱のような父性と、穏やかであるが忍耐力もある包容力のある母性の両方を持ち合わせた親イメージがある。そして、決して保守的・支配的な要素はない。理性的でしなやかな感性もある。

安心して委ねることが出来る大樹のような父親のイメージがあるのではないだろうか。

志向する父親イメージには、母性的要素もあり、現代の社会で望まれる親イメージに近いのではないだろうか。

c [被期待像]の第一因子を構成する項目は、包容的かつ好奇心旺盛で、感情表現豊かな情緒性を特徴としており、[将来像]においては

第二・第三因子を構成する項目で、[志向像]では第一因子と第三因子の一部の項目である。そして、他の二つの父親像イメージでは第一因子にリーダーシップ性が認められたが、[被期待像]では第二因子に認められている。また、第三因子には社会の常識を重視する・従順性の項目を含み、どちらかというところでは保守性を示す因子が認められ、被期待像の父親イメージは将来像や志向像のイメージの特徴とはやや異なる要素がある。

[被期待像]の第一因子には、＜やさしい＞という個人の性質を表すものと、＜包み込む・待つ＞など温和な情緒性を示しており、現代の女性達が男性に望む＜優しさ＞という特徴があげられているのではないだろうか。第二因子としてリーダー性、そして第三因子に保守性と理性がある。管理能力のあるリーダー性を全面に出すのではなく、やさしく温和であること、そして従順で社会の常識を重視するといった、ややおとなしい保守的なタイプの父親像を社会が期待しているとイメージしている。

(3) 未婚の男女が伴侶に望む親像イメージの特徴とその比較検討

A 伴侶に望む親イメージの平均得点の特徴と比較検討 (図2-1)

*未婚男性に、将来の伴侶(妻)にはどのような母親になってももらいたいかと設問をした。平均得点の第一位は＜思いやりのある＞項目で、続いて＜包み込むような・素直・感情表現の豊かな・純粋・穏やか＞という人に対する気持ちの持ち方や性質などを表す情緒的な要素があげられ、続いて＜世話・待つ・耐える・献身的＞という献身的な養育性をあげている。＜視野が広い・決断性＞という意志的要素も高得点である。

*未婚の女性が伴侶(夫)に望む父親像は、＜家族を支える・決断力・視野が広い・頼もしい・指導力のある＞と、力強く行動力もある意志的要素である。ついで＜好奇心旺盛な・感情表現の豊かな・穏やかな・共感性的のある＞等、穏やかな性質であって明朗かつ快活性のある感性のある人を求めている。

*次に、男性が＜母像像として望む要素＞と、女性が＜父親像として望む要素＞の違いを分析することによって、男女が異性にどのような資質を望んでいるのかを検討した。男性と女性の親像の各項目についてt検定を行った。＜素直・しなやか・純粋・保護的・献身・待つ・感情豊かな・依存性・穏やか・世話・従順性＞の項目の平均得点は5%の危険率で男性の得点が高い。未婚の男性が母親として女性に望む要素は、やさしく養育的な母親像で、どちらかというと犠牲的な養育性のある母親像の要素を肯定的にとらえている。女性が望む父親像では、＜家族を支える・決断力のある・厳格な・頼もしい・指導力のある・現実的な・論理的・視野の広い・客観的な・好奇心旺盛な＞等の項目で、平均得点は5%の危険率で女性の得点の方が高い。未婚の女性は将来の伴侶に対して、頼りがいのある好奇心旺盛なリーダータイプの父親像の要素を肯定的にとらえている。

B 伴侶に望む親イメージの因子分析

*男性が伴侶（妻）に望む母親像では、第一因子として、思いやり・包み込む・素直な等の項目からなる＜情的・感性的因子＞が抽出された。第二因子として、論理的・常識を重視等の項目からなる＜態度・知的因子＞が抽出された。

未婚の男性学生の伴侶（母）となる人へのイメージには、献身的で知性がありやさしく養育的な母親像があるといえよう。＜暖かく穏やかでやさしい母親像＞を求めている。（表2-3-1参照）

*女性が伴侶（夫）に望む父親像の第一因子は、耐える・純粋な・待つ・穏やか・世話・献身的などの項目で＜情的・感性因子＞が抽出された。

これは、対象の女性が社会が期待する母親像にイメージした親像（第一因子）と類似しており、献身的親性のイメージを将来の伴侶（夫）に望んでいる。第二因子は、家族を支える・頼もしい・決断力のある等の＜意志的＞因子で、リーダーシップのある

親性である。

このように、女性は＜献身的でリーダーシップのある父親像＞を将来の伴侶に求めている。（表2-3-2参照）

（4）未婚男女の結婚観と親イメージの特徴とその比較検討

A 未婚男性の結婚観と父親像イメージ

a 因子分析について（表2-4-1）

結婚観と親イメージの因子分析を検討するにあたり、因子分析を次のように行った。解釈上、固有値1以上の因子を2つのみ抽出し分析対象とした。よって、前述した各親イメージの因子分析の結果とは若干異なるので、あらたに因子分析の解釈をし、結婚観との検討を行った。

① [将来像]

第一因子として、思いやりのある・包み込む・穏やか・素直な・耐える・世話・家族を支える・献身的等からなる＜情的・感性因子＞が抽出された。

第二因子として、指導力・決断力・厳格な・自分の考えを通す・論理的等で＜意志的・態度因子＞が抽出された。

[将来像]の第一因子の特徴は、献身的で家族を支える献身的な親性で、第二因子は厳しさのあるリーダータイプの親性の特徴がある。

② [志向像]

第一因子は、思いやりのある・決断力・視野が広い・家族を支える・包み込む・穏やか等で＜意志的・情的及び感性因子＞が抽出された。

第二因子は、非支配的・自己本位ではない・合理的・論理的・厳格等の＜態度・知的因子＞が抽出された。

[志向像]の第一因子には将来像の第二因子の意志的要素が含まれ、献身的なリーダータイプの親性が特徴と言える。第二因子の特徴は、厳しさのある冷静性といえよう。

③ [被期待像]

第一因子は、思いやりのある・包み込む・共感的・視野が広い・頼もしい・耐える・世話・待つ・決断力等＜情的・意志的及び感性

因子>が抽出された。

第二因子は、被支配的・自己本位ではない・論理的・厳格な・合理的・自分の考えを通す等の<態度・知的因子>が抽出された。

[被期待像]の第一因子は、志向像と類似しているが、志向像より人に対してより情的に関わる要素があり、献身的で厳格性があるといえよう。

将来像の第一因子を献身的親性と、第二因子をリーダータイプの親性と特徴づけると、志向像及び期待像の第一因子には、将来像には含まれていない意志的要素が含まれ、よりリーダーシップ性のある親イメージがある。

次に結婚観と各父親像の因子分析結果とを検討したが、未婚男性の将来像の第一因子及び志向像の第一因子と結婚観の結果は、同傾向の知見を得られたので総合して述べる。

なお、このような知見が得られた理由は、将来像の第一因子と第二因子をあわせたイメージが志向像の第一因子であると考えられ、理想とし志向する父親像と、将来なるであろう父親像とのイメージに大きな乖離がないと考えられるからである。

しかし、期待像と結婚観では有意差のある知見は得られなかった。このことは、因子分析において志向像と期待像の第一因子の特徴が類似しているが、各変数の因子負荷量が異なることや、将来の父親像や結婚観には自分の価値観が表れるが、被期待像には社会がどのようなイメージを持っているかという社会の価値観が反映される。よって、結婚観と被期待像の間には有意ある知見が得られなかったと考える。

b 結婚観と父親像の<第一因子>を検討

将来像の第一因子<情的・感性因子>はどちらかというと献身的親性で、志向像の第一因子<意志的・情的及び感性因子>はどちらかというと献身的性とリーダーシップ性を持ち備えた親性と考えられるので、前者を献身的親性、後者をリーダー的親性と表す。

設問11から設問15における結婚観と因子の特徴を検討した。

① 結婚観と[将来像]・[志向像]

*[設問11]—理想的な相手が見つければ結

婚する群と、一生結婚をするつもりはない群とでは、5%の危険率で後者の方が献身的及びリーダー的親性が低い傾向が認められた。

*[設問12]—結婚年齢では、25-29歳までに結婚したい群と、年齢は関係ないという群及び結婚するつもりない群において、5%の危険率で後者二つの群の方が献身的及びリーダー的親性が低い傾向が認められた。

*[設問13]—相手の年齢では、年下の人がいいとする群と、結婚するつもりはない群において、5%の危険率で後者の方が献身的及びリーダー的親性が低い傾向が認められた。

*[設問14]—友人が結婚したらあせるかという事では、焦る群と焦らない群において、因子分析との結果に有意差は認められなかった。

*[設問15]—35歳時に結婚相手がいなかった場合にどうするかということでは、具体的行動を起こす群と、結婚するつもりはないので動揺しない群とでは、5%の危険率で後者の方が献身的親性及びリーダー的親性が低い傾向が認められた。

なお、将来像の第二因子の<意志的・態度因子>と志向像の<態度・知的因子>と、結婚観を検討したが、有意ある結果は得られなかった。

積極的に結婚を志向していない群では、自分が将来なるであろう父親像そして理想として志向する父親像において、<人に対する共感性等の情緒性、素直な純粋等だといった個人的な性質や指導性等の意志性>を特徴とする献身的やリーダーシップを備えた親性は、やや低い傾向があることが示唆された。

B 未婚女性の結婚観と母親像イメージ

a 因子分析について (表2-4-2)

昨年命名した因子名についてだが、今年度はその特性を考慮して再度命名し直した。分析の視点や結果は変わらない。

① 自分になるであろう将来の母親像

第一因子として、思いやり・包み込む・献身的・純粋・世話・耐える・素直等の項目か

らなる＜情的・感性因子＞が抽出された。

第二因子として、決断・指導力・頼もしい・論理的・視野が広い等の項目からなる＜意志的・知的因子＞が抽出された。

〔将来像〕の第一因子は、自己犠牲的養育性のある献身的親性、第二因子はリーダー的親性の特徴がある。

② 理想とし志向する母親像

第一因子として、思いやり・包み込む・穏やか・共感・視野が広い・感情表現の豊かな・家族を支える等の項目からなる＜情的・感性・意志的因子＞が抽出された。

第二因子として、被支配的・厳格な・自己本位ではない・非依存的・厳格等という項目からなる＜態度・知的因子＞が抽出され

〔志向像〕の第一因子には、将来像の第二因子の意志的要素が含まれ、献身的親性とリーダー的親性が統合されており、献身的なリーダータイプの親性の特徴がある。第二因子は、論理的だが人に対して厳格ではなく被支配的な態度であり、冷静性という特徴がある。

③ 社会が期待する母親像（被期待像）

第一因子として、思いやり・穏やか・世話・献身・耐える・包み込む・待つ・しなやか等の項目からなる＜情的・感性因子＞が抽出された。

第二因子として、決断力・論理的・視野の広い・指導力・好奇心旺盛・客観的・頼もしい等の項目からなる＜意志的・知的・感性因子＞が抽出された。

〔被期待像〕の第一因子は、将来像と類似しているが、家族を支えるとか従順さの項目も含まれより献身的な親性が伺われ、献身的な親性という特徴がある。第二因子は、感性の豊かなリーダーシップ性があり感性的リーダータイプの親性の特徴がある。

b 結婚観と母親像の＜第一因子＞を検討

① 結婚観と〔将来像〕

*〔設問11〕—結婚相手がいる群及びある年齢で結婚する群と、理想的な相手が見つければ結婚する群とでは、5%の危険率で前者2群の方の献身的親性が高い傾向がある。また、一生結婚をするつもりない群と理想の相手がいれば結婚する群とでは、5%の危険率で前者の方の献身親性は低い傾向があ

る。

*〔設問12〕—結婚年齢では、25-29歳までに結婚したい群と、年齢は関係ない群及び一生結婚しない群では、後者の2群の方が、5%の危険率で献身的親性が低い傾向がある。

*〔設問13〕—相手の年齢では、年上がいいとする群と結婚するつもりはないという群において、5%の危険率で後者の方が献身的親性が低い傾向がある。

*〔設問14〕—友人が結婚したら少しあせる群とあせりを感じる群の2群と、人は人と考えているのであせらない群では、5%危険率で前者2群の方が、献身的親性が高い傾向がある。

*〔設問15〕—30歳の時に結婚相手がいない場合にするかということでは、具体的行動を起こす群と、年齢にはこだわらないので動揺しない群・成り行きに任せる群及び結婚をするつもりないので動揺しないという3群では、5%の危険率で後者3群の方が献身的親性が低い傾向がある。

② 結婚観と〔志向像〕

*設問〔14〕—友人が結婚したらかなりあせる群と、人は人なのであせらない群とでは、5%の危険率で前者の方の献身的でリーダータイプの親性が高い傾向がある。

*〔設問11・12・13・15〕の結婚観と志向する親像の特徴に関しては、有意なる結果は得られなかった。

③ 結婚観と〔被期待像〕

*〔設問12〕—結婚年齢では、25-29歳までに結婚したい群と、30-34歳までに結婚したい群では、5%の危険率で後者の方の方がより＜社会は献身的でリーダータイプの親性を期待している＞と思っている傾向がある。

*〔設問11・12・13・14・15〕の結婚観と被期待像に関しては有意なる結果は得られなかった。

積極的に結婚を志向していない群では、自分が将来なるであろう母親像において、＜献身的親イメージが低い傾向＞があること、また、友人が結婚したら焦るという群は、志向像において＜献身的でリーダー的親性を志向している＞ということが示唆された。

c 結婚観と母親像＜第二因子＞を検討

① 結婚観と[将来像]

*[設問 1 1]結婚する相手がいる群と理想的な相手が見つかるまで待つ群とでは、5%の危険率で前者の方のリーダー的親性が高い傾向がある。

*[設問 1 2]—25-29歳頃に結婚をした群と、30-34歳頃に結婚をしたい群では、5%の危険率で後者の方がリーダー的親性が高い傾向がある。

*[設問 1 3]—結婚相手の年齢では、有意ある結果は認められなかった。

*[設問 1 4]—友人が結婚したら焦る群と人は人だから焦らない群では、5%の危険率で前者の方がリーダー的親性が低い傾向がある。

*[設問 1 5]—30歳時に結婚相手いない場合具体的行動を起こす群と、年齢にはこだわらないので動揺しない群と結婚するつもりはないので動揺しない群では、5%の危険率で後者2群の方のリーダー的親性が高い傾向がある。

② 結婚観と[志向像]

*[設問 11・12・13・14・15]の結婚観と志向像との特徴に関しては有意なる結果は得られなかった。

③ 結婚観と[被期待像]

*[設問 1 2]—24歳までに結婚したい群と25-29歳までに結婚した群では、5%の危険率で前者の方が社会では感性的なリーダータイプの親性の母親をイメージしていると思っている。

25-29歳までに結婚したい群と、年齢には関係がないという群では、5%の危険率で後者の方が社会では感性的なリーダータイプの親性を母親イメージとして描いていない。つまり、結婚年齢が早い方がよいと思っている人達は、社会が期待する母親像に感性的なリーダータイプの親性があるとイメージしている傾向がある。

*[設問 1 3]—相手の年齢では、年上の方がよいという群と、年齢は関係ないとする群と結婚するつもりはない群では、5%の危険率で後者の2つの群のほうが社会が期待する母親像に感性的なリーダータイプの親性

があるというイメージを描いていない。

*[設問 1 5]—30歳の時に相手がいらない場合に具体的行動を起こす群と、年齢に関係ないので動揺しない群と結婚するつもりはない群では、5%の危険率で後者2群の方が感性的なリーダータイプの親性を描いていない。

結婚観と母親イメージを検討した結果、積極的に結婚を志向していない人達の将来なるであろう母親像では、第一因子の＜献身的親イメージ＞が低い傾向があるが、第二因子の＜リーダー的親性＞は高い傾向が認められた。

また、友人が結婚したら焦るという人達は、第一因子の＜献身的でリーダー的親性＞を理想とし志向している傾向がある。

(5) まとめと考察

本年度は、未婚男子学生の父性・母性意識を心理学的な態度・行動という面でとらえ、未婚男子学生の父親像イメージと、将来の伴侶の妻に望む母親像イメージ等について検討した。また、前年度の調査対象者の未婚の女子学生の結婚観と親像イメージに関する分析結果も併せて報告する。

A 将来像・志向像・被期待像の三つの父親像における平均得点と相関からみた特徴

*未婚男子学生が将来なるであろうという父親像は、かつての父親のような支配性や自己本位性のない父親で、＜明るく社会性もあり、世話もするやさしい家庭的父親＞である。

*理想として志向する父親像は、将来像の父親像よりもリーダーシップ性及び家族への責任感の強い父親である。

*未婚男子学生は、社会が期待する父親像には、厳格性・献身性・常識を重視・従順性のあるという要素を考えているが、自分が将来なるであろう親イメージの中では、従順さ犠牲的献身性等をあまり重視してはいない。

*これら三つの父親像の要素は非常に類似している。各項目の得点の差は、どのくらい思うかの度合いであり、従順性の項目以外は、反対のイメージを表す項目は認め

られなかった。

B 三つの父親像の因子分析

* 三つの因子分析より、意志的・情的・感性的・知的・態度因子と考えられる因子が抽出された。これらの組み合わせにより、献身的な親性・リーダータイプの親性・感性的なリーダータイプの親性・保守的な親性といった親性の特徴が示唆された。

* 将来像の特徴：

＜スマートでリーダータイプの父親像＞

* 志向像の特徴：

成熟した男性で＜大樹のような父親像＞

* 被期待像の特徴：

優しく従順で＜おとなしい父親像＞

* 将来像と志向像における父親像のイメージには、乖離は認められない。だが、志向像においては、より論理的・客観的等と知的・理性的なものを志向しているといえる。

* [将来像][志向像]と[被期待像]との比較では、[被期待像]は前者ほどリーダー性は強く求られていなく保守性が認められることある。[将来像][志向像]の父親イメージと[被期待像]の父親イメージではややそのイメージが異なる。

C 未婚の男女が将来の伴侶に望む親イメージ

[男性が将来の伴侶（妻）に望む母親像]

* 因子分析によると、第一因子は情的及び感性的な因子で、暖かく穏やかで明るくどちらかというとき＜明るく養育的な母親像＞をイメージしている。

[女性が将来の伴侶（夫）に望む父親像]

* 第一因子は情的・感性的な因子で、＜温和で献身的な養育性のある父親像＞をイメージしている。

対象の女性は、かつては伝統的な母親像といわれた自己犠牲的養育性を将来の伴侶に求めている傾向がある。

D 未婚の男女の結婚観と親イメージの特徴

[未婚男性について]

* 積極的に結婚を志向していない人達は、将

来像及び志向像の父親像において、献身性やリーダーシップ性を備えた親イメージが低い傾向がある。

[未婚女性について]

* 積極的に結婚を志向していない人達は、将来の母親像における献身的な親イメージが低い傾向がある。

* 友人達が結婚した場合、焦る群と焦らない群では、焦る群の方が献身的でリーダータイプの母親を志向する傾向がある。だが、実際になるであろうという将来像では、第二因子のリーダー的親性は低い傾向がある。友人の結婚で焦る群は、母親イメージ間にやや矛盾がある。理想と現実のイメージのギャップがあるということは、人生に対する態度等がまだ十分に方向性づけられていないことも一因であろうと考えられる。

* 将来像の第二因子＜リーダー的親性＞では、早婚あるいは晩婚志向の人達やあるいは友人が結婚しても焦らない人達、そして結婚の年齢をこだわらない人達は、どちらかというときリーダー的親性が高い傾向がある。

考 察

未婚男女の親イメージ及び結婚観について

男性は、優しさや決断力もあるスマートなリーダータイプの父親になろうとしており、理想としてはよりリーダーシップ性があり包容性もある大樹のような父親像をイメージしている。

対象の男性は、かつての日本の家父長制を特徴づけていた父親像の要素を、自分の親イメージに取り入れていない。それは自己本位なまたは支配的な態度や、上に対する従順性といえるような要素である。しかし、社会の常識を重視するといった要素は父親イメージの中に位置づけられている。対象の男性・女性ともに、この社会の常識を重視するという要素を肯定的に受けとめている。

＜社会の常識を重視する＞という青年の反応をどのように考えたらいいのであろうか。イエ（＝家）や所属する社会にあって、その周囲の状況に合わせるといった調和や均衡状

態を保つという意味を含めて社会の常識を重視すると青年が考えているとしたならば、このことについては相当に考えなければならない。日本の社会を特徴づけていることとして考えられている日本人の自我の確立の問題と併せて分析することが重要であろう。

未婚男性の父親像は、将来像・志向像・被期待像において相関が高いということであるが、これについては次のように考える。

男性は、社会人として男性に求められる意志的・行動的要素、そして包容性・共感性といった情緒的な要素を修得していけば、自ずと男性として成熟していくというイメージをしている。そして、その延長上に父親があり、親になった場合その役割が遂行できると考えているのではないだろうか。

男性が父親になるということに関して、社会人として求められる役割と父親になるという役割に差違はないと、男性がもしイメージしているとしたら、かなり問題が出てくるであろう。子どもを育てるということは、組織における管理能力といった類のことではなく、他者による操作や促成栽培は不可能なことである。親として求められる役割や態度は、社会人としての役割とは異質のものがあるからである。

男性は、会社等の所属する社会の年長者や指導者から男性像のモデルを学習することができる。また、組織も能力開発の一環としてトレーニングをする。男性は管理社会の一員として訓練されるなかで、自ずと男性自身の男性像モデルができていくのではないだろうか。対象の男性は学生で社会人予備軍であるが、このような社会の要請を反映しているのではないだろうか。

対象の男性は将来、親としてどのくらい指導力・包容力・世話・耐える等の力を発揮できるだろうかと考える。それは上記のことばかりではなく、対象の男性の親モデルの学習について次のように考えるからである。

対象男性の父親達の年代は、1945年前後の生まれである。その親世代は大正年代であり、戦前の価値観と戦後の民主主義の価値観の大きな揺れを体験し、高度経済成長下における勤労と子育ての経験者である。故に、1945年

前後の世代の人達は、親モデルを継承することが難しかったのではないと思われる。

また、1945年前後に生まれた世代は、民主主義との戦いを学生運動・政治闘争の中でやってきた世代でもある。多くの人の場合は、個の確立よりも社会の変革にエネルギーを注ぎ、また勤労に注がれてきたのではないだろうか。そして、高度経済成長に組み込まれてきた。今日の日本の政治・経済の状況をみると、かつての価値観では国際競争には取り残される等と、価値観の変化を含めて様々なことの質的变化が求められている。対象の未婚者の親世代は、常に時代の大きなうねりとその影響を受けてきた世代である。

このような世代の父親達は、自分の親世代からも父親モデルを継承できないままに親になっている場合が多く、子どもに親モデルを示すことが困難であったと思われる。対象の男性達は、親モデルがないままに育ち、情報化社会によってもたらされる男性イメージを理想の男性イメージとして、モデル学習の体験のないままに父親イメージだけが肥大しているのではないかと考える。

未婚の女性の方は、将来の母親像と他の母親像との相関係数は男性のそれに比較して高くはない。

女性の将来像と期待像の相関係数は0.63、男性の将来像と期待像のそれは0.72である。

女性は、各項目に対する（そう思う）という積極的な反応が認められないということであろう。

対象の女性、社会が期待する母親像と志向する母親像との矛盾を抱え、親イメージを描くことに逡巡している様子が伺える。

男女ともに育てられるという経験を通じて母親モデルを体験しているであろう。

しかし、女性にとってそれなりの母親モデルはあっても、働く女性・妻・母親といった多くの役割を持った女性モデルは、日本ではまだ少なく、これからの女性の生き方はなかなか大変であると推察する。

因子分析では、女性の将来の母親像と被期待像では自己犠牲的ともいえる親性が第一因子であり類似している。志向像のそれは意志

的・行動的なリーダータイプの親性である。

女性は、[社会が期待する母親像]に抵抗を感じ、意志的で行動力のある母親像を求めている。だが、母親として現実に直面する時には、やや犠牲的で献身的な伝統的な母親像を受け継がざるを得ない気持ちになっていることを反映しているのではないだろうか。

このように、女性は志向する母親像と将来の母親像のイメージに乖離がある。だが、男性の父親像ではこのようなイメージの乖離は認められなかった。

また、女性は男性と同様に社会人としての役割が求められ、家庭では世話・育てるという養育性という親性が求められる。家庭において、男女に求められるものあるいは期待されるものの質と量が、日本においてはまだまだかなり異なっていることを示唆しているのではないだろうか。

興味深いことは、女性は将来の伴侶としての父親像にやや自己犠牲的といえる献身的な父親をイメージしている。このことは、男性にも親としての態度等を備えて欲しいという女性側からのメッセージの発信と理解できる。

男性は、まずは指導力のあるリーダータイプの父親像をイメージし、温和で包容力のある大樹のような父親を理想としている。女性の要望の献身的な父親というよりも、より男性的というか大きい存在としての父親像をイメージしている。

しかし、男性が求める将来の母親像は、穏やかで優しい温和な養育性のある親性である。しかし女性が志向する母親像は意志的・行動力のある母親像である。

男性が将来の伴侶に求める母親像と女性が志向する母親像のイメージは異なる。女性の方も伴侶に求める父親像と男性になるであろう父親像のイメージはやや異なる。

女性がイニシアティブを持つ家庭を女性自身がイメージしているとすれば、家族の役割と存在のイメージが男女では相当に異なるのではないだろうか。

報告のⅢ-1において現代日本における非婚・晩婚傾向の理由の第3位は、＜男性と女性のそれぞれの結婚相手に対する要求のミスマッチのため＞という理由であった。相手に

求める男性・女性像を父親像あるいは母親像に置き換えて検討してみると、そのギャップは大きいといえよう。

結婚相手のイメージや伴侶に求める親イメージの違い等について考えると、男女が求めているパイの大きさや質が異なるようである。また、対人関係の苦手さが非婚・晩婚の原因と男性は考えている。コミュニケーションが難しいとなると、結婚とか共に暮らすこと事態が困難になるのではないだろうか。

親イメージと結婚観との関係については、結婚に関して積極的な思いを持っていない人達の父親像あるいは母親像イメージには、やや情的・感性的要素が低い傾向が認められ、親性がやや低い傾向があることが今回の分析で示唆された。男女ともに理想とする人生は、自由に生きたい・子どもは持たずにいたいという人の割合が少なくないことから、青年の人生観と親性などについて分析することが重要である。

本研究結果より、今後の分析課題としてあげられることは、親イメージと結婚観あるいは人生観に関することである。特に親モデルと親性の問題や、自我の確立と人生態度などに関することについては大きな課題である。

＜参考文献＞

- 1) 千賀悠子他：1992「家庭・出生問題総合調査研究—家庭養育機能と職業生活の両立に関する研究」，日本総合愛育研究所紀要，第29集，101-122
- 2) 河合隼雄：1994，「流動する家族関係」—河合隼雄著作集 第14巻，岩波書店
- 3) 谷村志穂：1996，「結婚しないかもしれない症候群 男性版」，主婦の友社

(表2-1) 親イメージの各平均値の順位 (対象-男性)

将来の父親イメージ	平均点	志向する父親イメージ	平均点	社会が期待する父親イメージ	平均点	あなたが望む母親イメージ	平均点
2 家族を支える	5.346	2 家族を支える	6.187	2 家族を支える	6.183	22 思いやりのある	6.359
22 思いやりのある	5.308	8 決断力のある	6.161	8 決断力のある	6.158	4 包み込むような	6.178
3 現実的	5.120	23 頼もしい	6.160	23 頼もしい	6.031	1 素直な	6.099
20 穏やかな	5.033	17 視野が広い	6.133	30 指導力のある	5.932	16 感情表現の豊かな	6.038
10 好奇心旺盛な	4.948	22 思いやりのある	6.123	17 視野が広い	5.874	6 純粋な	6.038
27 共感的	4.944	30 指導力のある	5.975	22 思いやりのある	5.829	20 穏やかな	6.026
26 耐えることができる	4.908	4 包み込むような	5.855	12 社会の常識を重視する	5.786	17 視野が広い	6.022
4 包み込むような	4.826	16 感情表現の豊かな	5.747	4 包み込むような	5.639	25 世話をする	5.960
15 待つことのできる	4.783	26 耐えることができる	5.689	3 現実的	5.614	5 しなやかな	5.933
25 世話をする	4.770	27 共感的	5.600	26 耐えることができる	5.584	27 共感的	5.909
17 視野が広い	4.752	20 穏やかな	5.594	25 世話をする	5.444	15 待つことのできる	5.823
9 保護的	4.713	15 待つことのできる	5.545	27 共感的	5.423	26 耐えることができる	5.673
14 自分の考えを通す	4.678	10 好奇心旺盛な	5.493	20 穏やかな	5.405	13 献身的	5.647
16 感情表現の豊かな	4.676	1 素直な	5.449	13 献身的	5.344	2 家族を支える	5.583
1 素直な	4.669	6 純粋な	5.426	7 厳格な	5.293	9 保護的	5.562
6 純粋な	4.655	25 世話をする	5.328	19 合理的	5.230	10 好奇心旺盛な	5.432
23 頼もしい	4.649	5 しなやかな	5.133	15 待つことのできる	5.228	8 決断力のある	5.182
19 合理的	4.643	13 献身的	5.131	9 保護的	5.203	3 現実的	5.006
12 社会の常識を重視する	4.607	9 保護的	5.064	16 感情表現の豊かな	5.141	23 頼もしい	4.994
11 論理的	4.582	3 現実的	5.058	11 論理的	5.115	29 従順な	4.920
30 指導力のある	4.579	19 合理的	4.986	1 素直な	5.109	19 合理的	4.745
8 決断力のある	4.530	28 客観的	4.934	5 しなやかな	5.004	28 客観的	4.741
28 客観的	4.528	14 自分の考えを通す	4.726	28 客観的	4.983	12 社会の常識を重視する	4.735
13 献身的	4.528	11 論理的	4.717	6 純粋な	4.953	30 指導力のある	4.708
7 厳格な	4.133	12 社会の常識を重視する	4.707	10 好奇心旺盛な	4.786	14 自分の考えを通す	4.407
5 しなやかな	4.098	7 厳格な	4.550	14 自分の考えを通す	4.632	18 依存的	4.292
18 依存的	3.887	29 従順な	3.990	29 従順な	4.432	11 論理的	4.136
24 自己本位な	3.877	18 依存的	3.512	21 支配的	3.977	7 厳格な	3.578
29 従順な	3.864	21 支配的	3.388	18 依存的	3.683	21 支配的	2.925
21 支配的	3.601	24 自己本位な	3.162	24 自己本位な	3.398	24 自己本位な	2.822

* 7段階スケール (7. 非常にそう思う 6. かなりそう思う 5. ややそう思う 4. どちらとも言えない 3. ややそう思わない 2. かなり思う 1. 非常にそう思わない)

* No. 一項目の配列順序

(表2-3-1) 男性の<親イメージ>4因子---因子負荷量 (Varimax回転後)
<将来の父親イメージ>

第1因子		第2因子		第3因子		第4因子	
30 指導力のある	0.73315	5 世話をする	0.61789	6 純粋な	0.60317	24 自己本位な	0.68545
8 決断力のある	0.67468	22 思いやりのある	0.58951	1 素直な	0.54504	21 支配的	0.62487
23 頼もしい	0.64311	27 共感的	0.50248	5 しなやかな	0.49098	14 自分の考えを通す	0.45841
17 視野が広い	0.60490	20 おだやかな	0.50013				
16 感情表現の豊かな	0.47779	29 従順な	0.47704				
		26 耐えることができる	0.45815				
寄与率	25.7%	寄与率	21.2%	寄与率	15.2%	寄与率	13.7%
累積寄与率	25.7%	累積寄与率	46.9%	累積寄与率	62.1%	累積寄与率	75.8%
意志的因子		情的因子		感性因子		態度因子	

<志向する父親イメージ>

第1因子		第2因子		第3因子		第4因子	
8 決断力のある	0.76576	11 論理的	0.65568	6 純粋な	0.61034	18 依存的	0.64448
23 頼もしい	0.75028	19 合理的	0.57355	5 しなやかな	0.56312	21 支配的	0.62362
22 思いやりのある	0.73657	28 客観的	0.55981	1 素直な	0.52684	24 自己本位な	0.63002
17 視野が広い	0.70760					29 従順な	0.49467
2 家族を支える	0.68420						
30 指導力のある	0.63544						
16 感情表現の豊かな	0.62091						
4 包み込むような	0.58893						
15 待つことができる	0.49102						
27 共感的	0.49509						
25 世話をする	0.48162						
26 耐えることができる	0.46868						
20 穏やかな	0.46551						
寄与率	41.3%	寄与率	15.3%	寄与率	14.7%	寄与率	14.7%
累積寄与率	41.3%	累積寄与率	56.6%	累積寄与率	71.3%	累積寄与率	86.0%
意志的・情的因子		知的因子		感性因子		態度因子	

＜社会が期待する父親イメージ＞

第1因子		第2因子		第3因子		第4因子	
6 純粋な	0.74332	8 決断力のある	0.71422	19 合理的	0.58440	21 支配的	0.69612
5 しなやかな	0.73507	23 頼もしい	0.70055	12 社会の常識を重視する	0.56506	24 自己本位な	0.68738
1 素直な	0.69855	2 家族を支える	0.69626	11 論理的	0.50806	14 自分の考えを通す	0.60144
4 包み込むような	0.63263	30 指導力のある	0.64216	29 従順な	0.50330	7 厳格な	0.48310
15 待つことができる	0.56141	22 思いやりのある	0.59792				
20 穏やかな	0.52984	17 視野が広い	0.49839				
27 共感的	0.51825						
16 感情表現の豊かな	0.47991						
寄与率	32.2%	寄与率	25.9%	寄与率	18.5%	寄与率	13.9%
累積寄与率	32.2%	累積寄与率	58.1%	累積寄与率	76.6%	累積寄与率	90.5%
情的・感性因子		意志的因子		知的因子		態度因子	

＜あなたが望む母親イメージ＞

第1因子		第2因子		第3因子		第4因子	
22 思いやりのある	0.80073	11 論理的	0.71051	23 頼もしい	0.61518	21 支配的	0.65146
2 包み込むような	0.75610	12 社会の常識を重視する	0.54634	30 指導力のある	0.51210	24 自己本位な	0.64106
3 素直な	0.73116	7 厳格な	0.50965	8 決断力のある	0.49221		
25 世話をする	0.72690	19 合理的	0.50761				
6 純粋な	0.71780	28 客観的	0.46137				
5 しなやかな	0.69290						
27 共感的	0.69191						
20 穏やかな	0.66669						
9 保護的	0.49071						
2 家族を支える	0.45549						
寄与率	53.2%	寄与率	18.0%	寄与率	12.6%	寄与率	11.4%
累積寄与率	53.2%	累積寄与率	71.2%	累積寄与率	83.8%	累積寄与率	95.2%
情的・感性因子		知的・態度因子		意志的因子		態度因子	

(表2-2) 各父親イメージ間の相関

	将来像	志向像	被期待像
将来像	1.000	0.796	0.720
志向像		1.000	0.879
被期待像			1.000

(表2-3-2) 女性対象くあなたが望む父親イメージ>4因子(昨年度の調査より)

----- 因子負荷量 (Varimax回転後)

第1因子		第2因子		第3因子		第4因子	
6 純粹な	0.61869	2 家族を支える	0.69334	24 自己本位な	0.70702	11 論理的	0.63134
26 耐えることができる	0.59236	8 決断力のある	0.65720	18 依存的	0.69157	3 現実的な	0.60659
15 待つことができる	0.57961	23 頼もしい	0.64776	21 支配的	0.62169	28 客観的	0.56267
1 素直な	0.54388	30 指導力のある	0.56574	29 従順な	0.48246	19 合理的	0.47972
20 穏やかな	0.53861	22 思いやりのある	0.53428				
25 世話をする	0.51473	17 視野が広い	0.48344				
5 しなやかな	0.50253	4 包み込むような	0.47036				
13 献身的	0.49008						
27 共感的	0.48391						
寄与率	49.69%	寄与率	23.37%	寄与率	13.88%	寄与率	10.00%
累積寄与率	49.69%	累積寄与率	73.05%	累積寄与率	86.94%	累積寄与率	96.93%
情的・感性因子		意志的因子		態度因子		知的因子	

(表2-4-1) 男性の＜親イメージ＞2因子――因子負荷量 (Varimax回転後)

＜将来の父親イメージ＞

第1因子		第2因子	
22 思いやりのある	0.69806	30 指導力のある	0.68476
4 包み込むような	0.64903	8 決断力のある	0.63895
20 穏やかな	0.61390	7 厳格な	0.61220
1 素直な	0.61362	14 自分の考えを通す	0.54114
26 耐えることができる	0.59784	11 論理的	0.52481
25 世話をする	0.58200	17 視野が広い	0.47896
6 純粋な	0.58085	23 頼もしい	0.47747
27 共感的	0.57670	21 支配的	0.47410
2 家族を支える	0.53412		
13 献身的	0.52173		
15 待つことのできる	0.51551		
5 しなやかな	0.50111		
寄与率	44.1%	寄与率	29.4%
累積寄与率	44.1%	累積寄与率	73.5%
情的・感性因子		意志的・態度因子	

＜志向する父親イメージ＞

第1因子		第2因子	
22 思いやりのある	0.78567	21 支配的	0.66202
8 決断力のある	0.74328	24 自己本位な	0.62153
17 視野が広い	0.72621	18 依存的	0.55976
2 家族を支える	0.71211	19 合理的	0.49106
23 頼もしい	0.70567	11 論理的	0.47257
4 包み込むような	0.68356	7 厳格な	0.47250
16 感情表現の豊かな	0.65436	3 現実的	0.46027
15 待つことのできる	0.65117	29 従順な	0.45948
20 穏やかな	0.64867		
27 共感的	0.64379		
26 耐えることのできる	0.63368		
30 指導力のある	0.62778		
25 世話をする	0.60621		
6 純粋な	0.53638		
1 素直な	0.51157		
10 好奇心旺盛な	0.46944		
5 しなやかな	0.45212		
寄与率	55.7%	寄与率	24.3%
累積寄与率	55.7%	累積寄与率	80.0%
意志的・情的・感性因子		態度・知的因子	

＜社会が期待する父親イメージ＞

第1因子		第2因子	
22 思いやりのある	0.78945	21 支配的	0.70360
4 包み込むような	0.73018	24 自己本位な	0.63979
27 共感的	0.72272	11 論理的	0.56167
20 穏やかな	0.71966	7 厳格な	0.54755
17 視野が広い	0.70495	19 合理的	0.53712
23 頼もしい	0.70245	14 自分の考えを通す	0.49541
26 耐えることができる	0.69227	28 客観的	0.47001
25 世話をする	0.66181	18 依存的	0.45252
15 待つことのできる	0.65971		
8 決断力のある	0.65186		
2 家族を支える	0.64584		
16 感情表現の豊かな	0.64450		
5 しなやかな	0.63149		
6 純粋な	0.59286		
1 素直な	0.59027		
13 献身的	0.57577		
30 指導力のある	0.54140		
10 好奇心旺盛な	0.47545		
寄与率	56.6%	寄与率	21.6%
累積寄与率	56.6%	累積寄与率	77.8%
情的・意志的・感性因子		態度・知的因子	

＜あなたが望む母親イメージ＞

第1因子		第2因子	
22 思いやりのある	0.81482	21 支配的	0.65202
4 包み込むような	0.77503	11 論理的	0.62692
25 世話をする	0.75523	7 厳格な	0.58314
1 素直な	0.73131	24 自己本位な	0.57925
27 共感的	0.71754	19 合理的	0.54919
20 穏やかな	0.68520	30 指導力のある	0.54479
6 純粋な	0.68282	28 客観的	0.51405
5 しなやかな	0.67875		
26 耐えることのできる	0.67625		
16 感情表現の豊かな	0.67108		
15 待つことのできる	0.65303		
17 視野が広い	0.64766		
13 献身的	0.60092		
2 家族を支える	0.53254		
9 保護的	0.46533		
寄与率	56.6%	寄与率	26.7%
累積寄与率	56.6%	累積寄与率	83.3%
情的・感性因子		態度・知的因子	

(表2-4-2) 女性の＜親イメージ＞2因子（本年度調査分を含む）――因子負荷量（Varimax回転後）

＜将来の母親イメージ＞

第1因子		第2因子	
22 思いやりのある	0.74136	8 決断力のある	0.67904
4 包み込むような	0.70904	30 指導力のある	0.66715
13 献身的	0.65326	23 頼もしい	0.51871
6 純粋な	0.58976	11 論理的	0.50434
25 世話をする	0.58047	17 視野が広い	0.46613
26 耐えることができる	0.56323		
5 しなやかな	0.51762		
1 素直な	0.51681		
24 自己本位な	0.50533		
15 待つことのできる	0.48808		
27 共感的	0.48026		
20 穏やかな	0.47886		
29 従順な	0.46961		
寄与率	44.3%	寄与率	27.7%
累積寄与率	44.3%	累積寄与率	72.0%
情的・感性因子		意志的・知的因子	

＜志向する母親イメージ＞

第1因子		第2因子	
22 思いやりのある	0.74437	21 支配的	0.66119
4 包み込むような	0.67958	7 厳格な	0.54919
20 穏やかな	0.62222	24 自己本位な	0.50559
27 共感的	0.60011	18 依存的	0.48363
17 視野が広い	0.59563	11 論理的	0.46021
16 感情表現の豊かな	0.57325		
2 家族を支える	0.56979		
26 耐えることができる	0.56117		
15 待つことのできる	0.56052		
6 純粋な	0.55935		
1 素直な	0.55015		
25 世話をする	0.50333		
23 頼もしい	0.49779		
5 しなやかな	0.48990		
13 献身的	0.46380		
寄与率	51.2%	寄与率	23.7%
累積寄与率	51.2%	累積寄与率	74.9%
情的・感性・意志的因子		態度・知的因子	

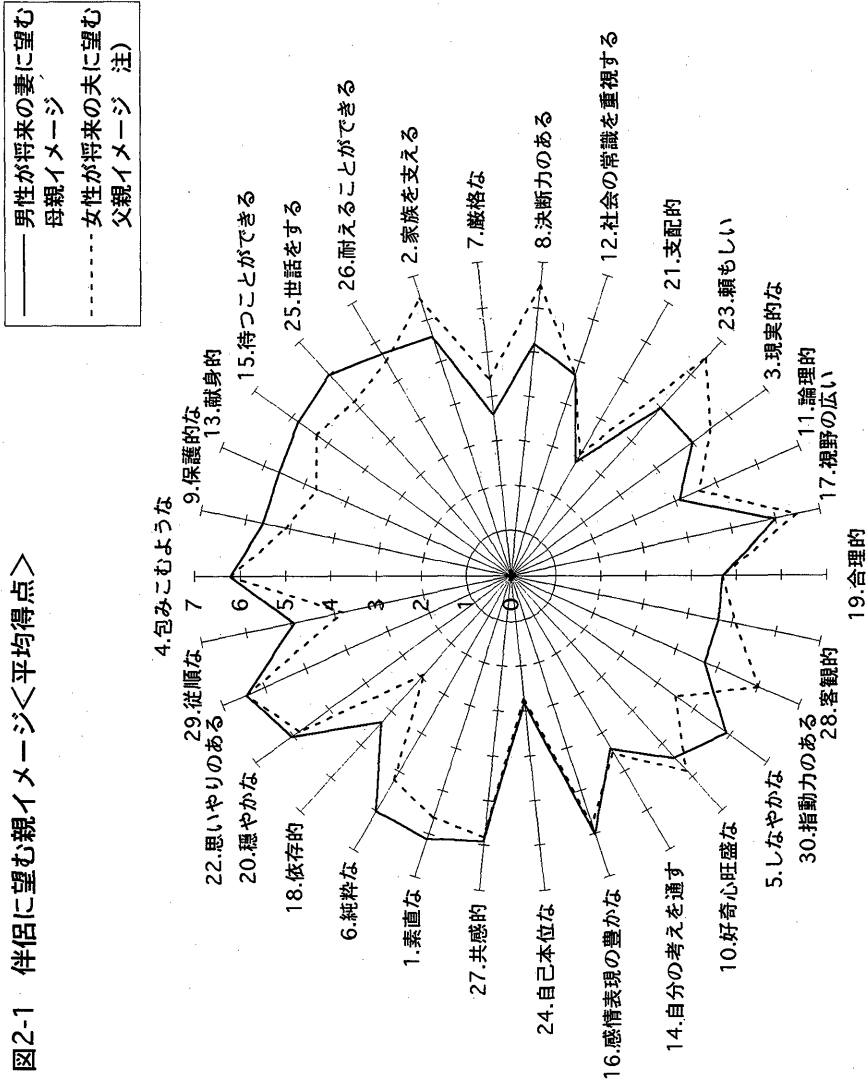
＜あなたが望む父親イメージ＞

第1因子		第2因子	
22 思いやりのある	0.70570	24 自己本位な	0.60339
17 視野が広い	0.59841	21 支配的	0.60205
27 共感的	0.59606	18 依存的	0.57444
26 耐えることができる	0.59397	29 従順な	0.47018
4 包み込むような	0.57284	7 厳格な	0.45955
20 穏やかな	0.56637		
23 頼もしい	0.56201		
2 家族を支える	0.54058		
8 決断力のある	0.53202		
6 純粋な	0.52374		
1 素直な	0.51338		
25 世話をする	0.48532		
30 指導力のある	0.45659		
15 待つことのできる	0.45622		
16 感情表現の豊かな	0.45494		
寄与率	47.1%	寄与率	26.3%
累積寄与率	47.1%	累積寄与率	73.4%
情的・意志的・感性因子		態度因子	

＜社会が期待する母親イメージ＞

第1因子		第2因子	
22 思いやりのある	0.74300	8 決断力のある	0.70519
20 穏やかな	0.70735	11 論理的	0.65681
25 世話をする	0.70169	17 視野が広い	0.64031
13 献身的	0.68705	30 指導力のある	0.61560
26 耐えることができる	0.67743	10 好奇心旺盛な	0.59052
4 包み込むような	0.67395	28 客観的	0.54161
15 待つことのできる	0.67342	23 頼もしい	0.52178
5 しなやかな	0.60950	19 合理的	0.51278
6 純粋な	0.60024	16 感情表現の豊かな	0.51266
1 素直な	0.57358	14 自分の考えを通す	0.48703
29 従順な	0.56219	3 現実的	0.47854
27 共感的	0.55911	7 厳格な	0.45403
2 家族を支える	0.45331		
寄与率	46.0%	寄与率	32.1%
累積寄与率	46.0%	累積寄与率	78.1%
情的・感性因子		意志的・知的・感性因子	

図2-1 伴侶に望む親イメージ＜平均得点＞



注) 女性の対象に本年度分含む。サンプル：男性527名、女性748名（昨年調査554名+本年調査194名）